PARATEX

環境を守り、信頼に応える

大関化学工業株式会社

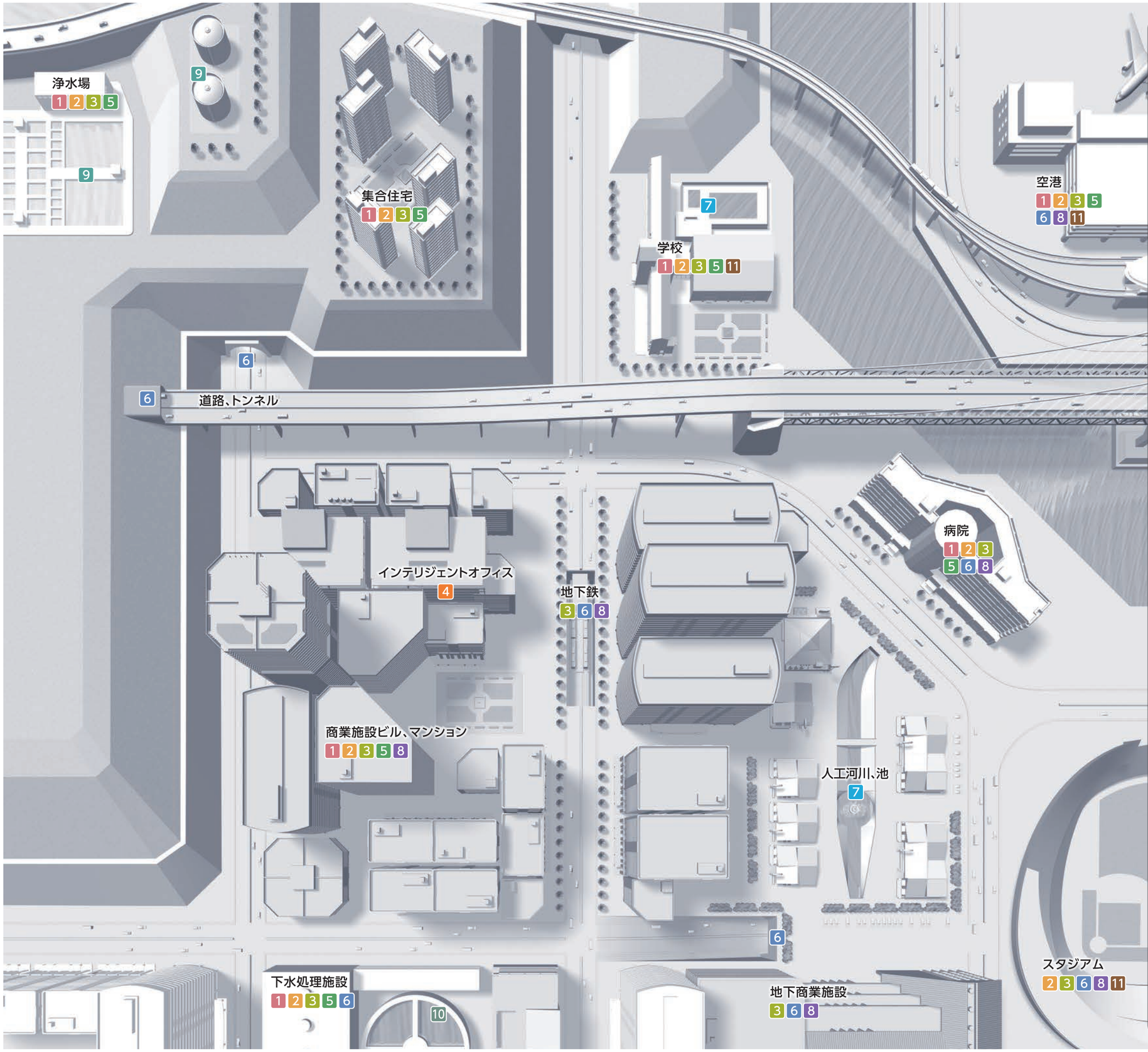
この大切な環境を守りながら、
わたしたちの街の現在、未来を守る。
パラテックスは耐久性に優れ、
安心、安全を約束する防水材です。

PARATEX

パラテックスは、耐水性、接着性、耐候性、耐薬品性など、総合的耐久性に優れた防水材です。
ポリマーセメント系塗膜防水材のリーディングブランドとして、独自の防水メカニズムによる建造物の耐久力アップや、
環境に配慮した防水材の開発など、様々な製品、工法の開発に取り組んでいます。
「環境を守り、信頼に応える」という企業理念のもと、これからも環境に調和した製品を創り続けてまいります。

C O N T E N T S

パラテックスの施工箇所		3
導入事例		5
パラテックスの特長		7
	低環境負荷・安全性／耐久性／施工性／接着性／耐亀裂性	8
パラテックスの性能評価		9
防水工法の構成について		11
パラテックス標準工法の適応箇所		12
パラテックス防水工法	A 仕様	13
	C 仕様	15
	C-BRD 仕様	17
	C-BRQ 仕様	19
	AP 仕様	21
	B 仕様	23
	Q 仕様	27
パラテックス吹付け工法		27
各工程について		28
下地処理及び特殊納まり標準施工図		29
工法の使用材料		31
防食被覆工法	EP-GS 工法／ EP-GSX 工法	33
	EP-LG 工法／ EP- ライニング工法	34
外壁防水工法	クリアコート eco ／パラテックス DW ／パラトーン	34
その他の防水工法・関連製品	HYDRA（ハイドラ）	35
	U-HIT（ユーヒット）	35
	パラウエイ	35
	パライージー	36
	OSMOTIGHT（オスモタイト）	36
	仮防水材 OZ	36
	パラベース NEO	36
製品 一覧		37
注意事項		45



街の様々な箇所で活躍する大関化学の製品

1 屋上、ルーフバルコニー、斜屋根等

[工法] パラテックス C 仕様 ▷P15
パラテックス C-BR(D、Q)仕様 ▷P17
(パラテックス A、AP 仕様のケースもあります)

2 ベランダ、バルコニー、庇、開放廊下、外階段等

[工法] パラテックス A 仕様 ▷P13
パライージー ▷P36
(パラテックス C 仕様のケースもあります)

3 厨房、トイレ、浴室、窓回り、各種防水補強等

[工法] パラテックス A 仕様 ▷P13
パラテックス C 仕様 ▷P15

4 フリーアクセスベースフロア

[工法] パラテックス Q 工法 ▷P27

5 外壁

[工法] クリアコート eco ▷P34
パラテックス DW ▷P34
パラトーン ▷P34

6 地下内外壁、共同溝、トンネル

[工法] パラテックス B-2 工法 ▷P23
(パラテックス B-1 工法のケースもあります)

7 プール、人工河川、池

[工法] パラテックス B-1 工法 ▷P23

8 地下各種水槽

[工法] パラテックス B 仕様 ▷P23

9 飲料用水槽(上水道施設等)

[工法] パラテックス B-5A 工法 ▷P25
パラテックス EP-LG 工法 ▷P34
パラテックス EP- ライニング工法 ▷P34

10 下水処理施設(防食被覆工法)

[工法] パラテックス B 仕様 ▷P23
パラテックス EP-GS/EP-GSX 工法 ▷P33

11 金属屋根

[工法] HYDRA(ハイドラ) ▷P35

※詳細な施工適応箇所については P12 をご参照ください。

日本全国で活躍するパラテックス防水工法。

❶ 知床第一ホテル（北海道）
大浴場　B-1 工法

❷ 大倉山ジャンプ競技場（北海道）
水槽、地下外壁　B-2 工法

❸ 公益財団法人星総合病院（福島県）
地下外壁、水槽、庇、ベランダ、屋上パラペット　B-2、A-4 工法

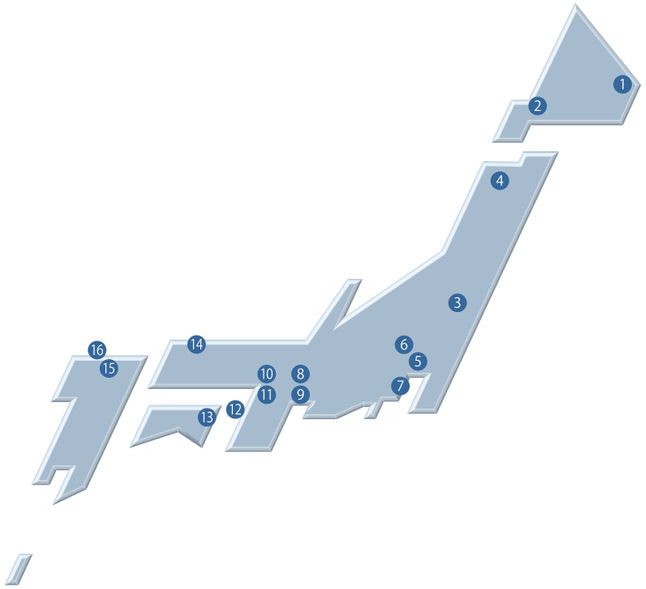
❹ 青森県立武道館（青森県）
地下外壁、相撲場床　B-2、C-1 工法

❺ 虎ノ門ヒルズ（東京都）
外部階段、地下内壁、地下ピット　A-1、B-2 工法

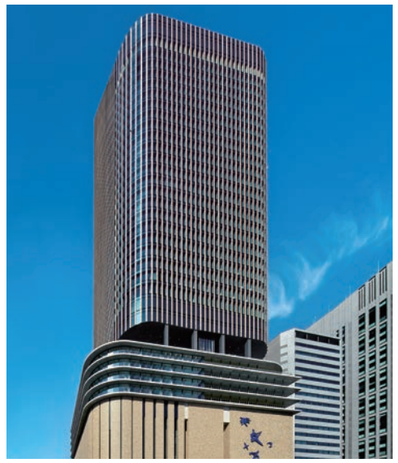
❻ 飯田橋グラン・ブルーム（東京都）
地下ピット　B-2、B-6D 工法

❼ MM21 地区（神奈川県）
各種水槽、室内、フリーアクセスフロア、他　B-2,B-4,A-1,Q 工法

❽ 名古屋市科学館（愛知県）
地下ピット　B-2 工法



❾ JR セントラルタワーズ（愛知県）
消火水槽、ポンプ室　B-2 工法



❿ 中之島フェスティバルタワー（大阪府）
トイレ、フリーアクセスベースフロア他　A-1、Q 工法

⓫ あべのハルカス（大阪府）
地下外壁、OA フロア他　B-1、Q 工法

⓬ 関西国際空港（大阪府）
共同溝、他　B-1 工法

⓭ 大塚国際美術館（徳島県）
消火水槽、中水処理槽、浄化槽　B-2 工法

⓮ 島根県立中央病院（島根県）
バルコニー、外壁、ヘリポート、ピット、機械室　A-2、A-1、B-2、Q 工法

⓯ JR 博多シティ（福岡県）
避難バルコニー、軌道下部、室内トイレ他　C-2、C-1 工法

⓰ ヒルトン福岡シーホーク（福岡県）
水槽、地下外壁、外部階段　B-1、C-1 工法

パラテックスの歴史、そして培った信頼

SINCE
1955

PARATEX

低環境負荷・
安全性

耐久性

施工性

接着性

耐亀裂性

防水材の未来形、パラテックスはあらゆるニーズに応えます。

パラテックスが誕生してすでに半世紀以上。この間、大関化学工業は防水にかかわる幅広いニーズに応えながら、さまざまな製品・工法の開発に取り組んできました。パラテックス防水工法は、独自の防水メカニズムを活用し、強力な接着性をはじめ、耐水性・耐薬品性など総合的耐久性に優れ、その機能性、品質の高さは、多くの採用実績において証明されています。

低環境負荷・安全性

施工環境の安全性に優れた「**水性エマルション**」。

水性エマルションと無機粉体を原料としているため、有毒ガスの発生や火気による引火の危険性がありません。
また、水槽類をはじめ、地下構造物などにご使用いただいても水質汚染等の心配もありません。

耐久性

様々な現場の実績が証明する「**バランスの取れた高い耐久性**」。

耐候性、耐薬品性に優れた樹脂と耐食性の高い特殊アルミナセメントを使用することにより、総合的な耐久性に優れた強靱な防水層を形成します。

施工性

施工現場を考え、「**作業性に優れた防水材**」を目指して。

塗膜防水であることにより、複雑な形状の下地に対して、容易にシームレスな防水層を形成することが可能であることに加え、最適な粘度、流動性を実現した材料により、良好な作業性が得られます。

接着性

下地の状態を選ばない「**強固な接着力**」。

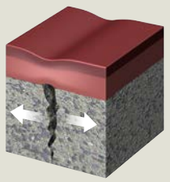
通常のコンクリートはもちろん、含湿コンクリートに対しても強靱な接着力を発揮し、地下埋め戻し部の圧密沈下による防水層の剥離や、躯体と防水層間への水の浸入などをしっかり防ぎます。これは、アルミナセメントの水和反応により、下地のコンディションを問わず、安定した造膜性、接着性が得られることによるものです。セメント系上塗り材や各種上塗り材との接着性も良好です。

※コンクリート表層のレイタンス、付着物等は撤去する必要があります。
※パラテックス塗膜の水和反応は、SPring-8（大型放射光施設）における X 線回折により実証されております。

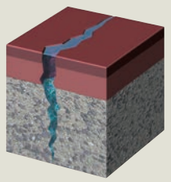
耐亀裂性

塗膜の「**柔軟性**」と「**自閉性**」。（自閉樹脂塗膜防水）

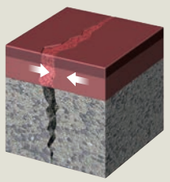
柔軟性のある樹脂を高比率で使用しているので、コンクリート下地に生じる亀裂に対する追従性に優れ、水の浸入を防ぎます。万一コンクリートとともに防水層が破断した場合でも、防水層破断部が水分を吸収し体積膨張して、更に特殊添加成分が亀裂断面間での相互作用を促進し、化合物を形成することで自閉します。　※自閉作用は現場状況により異なります。



Step.1
亀裂発生状態



Step.2
防水層
亀裂発生状態



Step.3
防水層
亀裂部閉鎖状態

パラテックスの性能評価

様々な性能試験によって、パラテックスの耐水性、接着性、耐薬品性など、総合的耐久性能が実証されています。

■主なパラテックス製品の材料特性

◎パラテックス原液

耐水性、耐アルカリ性に優れた特殊変性のエチレン酢酸ビニル系共重合樹脂エマルションであり、各種防水工法の基本材料です。

外　観	：	乳白色液体
主成分	：	変性エチレン酢酸ビニル共重合樹脂
固形分	：	53±2%
粘　度	：	18,000±5,000mPa･s(30℃)
pH	：	6.0±1.5

◎パラテックス混和材

パラテックス原液に混和して使用する各種防水工法の基本材料です。

パラテックスA混和材 パラテックスB混和材 パラテックスQ1混和材	外　観	：	茶褐色粉体
	主成分	：	特殊アルミナセメントおよび 特殊調合骨材

■主な防水層の性能

※当データーはある条件下で測定したものであり、いかなる条件下でも再現される保証値ではありません。予めご了承下さい。

◎塗膜物性

防水工法		引張強さ(N/㎟)	伸び率(%)	ゼロスパン伸び量(㎜)
A-1		0.70	290	3.65
C-1	縦方向	17.5	115	7.00
	横方向	8.7	112	7.00
C-BRD-1		27	22	8.00
C-BRQ-1		27	22	6.00
B-1		1.35	45	1.92

[試験方法]
引張強さ･伸び率は、下記画像左側2枚の試験機を用いて測定した数値から算出した。ゼロスパン伸び量は下記画像右側2枚の試験機を用いて測定した数値から算出した。
養生は23±2℃、50±5%RHで4週間行った。

◎耐薬品性

分類、薬品名等		濃度	B材塗膜	パラコート	パラコートα	EZ	EP-GSS	EP-GSX
水道水		—	○	○	○	○	○	○
飽和セメント水		—	○	○	○	○	○	○
無機酸	塩酸	10%	×	×	—	×	○	○
	硫酸	10%	×	×	—	×	○	○
酸化剤	次亜塩素酸ナトリウム	0.5ppm※1	○	○	○	○	○	○
		1.0ppm※2	○	○	○	○	○	○
		100ppm	○	○	—	○	○	○
アルカリ	水酸化ナトリウム	10%	×	×	—	×	○	○
	水酸化カルシウム	飽和	○	○	○	○	○	○
塩	塩化ナトリウム	飽和	○	○	○	○	○	○
	塩化カルシウム	50%	×	×	—	×	○	○
有機溶剤	エタノール	30%	×	×	×	×	×	○
	トルエン	100%	×	×	×	×	×	×
	キシレン	100%	×	×	×	×	×	×
鉱油類	オイル(潤滑油)	100%	○	○	○	○	○	○
	軽油(A重油)	100%	○	○	○	○	○	○
有機酸類	酢酸	10%	—	—	—	—	×	○
	プロピオン酸	10%	—	—	—	—	×	○
	パルミチン酸	100%	—	—	—	—	×	○
	オレイン酸	100%	—	—	—	—	×	○
厨房汚水(現物採取)		—	×	×	×	×	×	○

※1：水道水の残留塩素濃度
※2：プールの残留塩素濃度

○：異状なし　×：異状あり

[試験方法]
試験体はいずれもスレート板上へ施工後、各液に6ヶ月間浸漬し、塗膜の膨れ、割れ、剥がれ、穴等の異状の有無を観察した。

◎付着強さ(B-1塗膜)

下地の種類	付着強さ(N/㎟)
コンクリート(標準歩道板)	2.15
湿潤コンクリート	1.60
モルタル	2.20
上塗りモルタル(防水層上へ打設)	1.10

[試験方法]　※試験の防水塗膜はいずれもB-1工法による
各下地は28日養生(上塗りモルタルはモルタル打設より26日養生)の後、試験を行った。試験は4×4cmの角型鋼製治具をセットし、垂直方向に引っ張った。
養生は23±2℃、50±5%RHで行った。

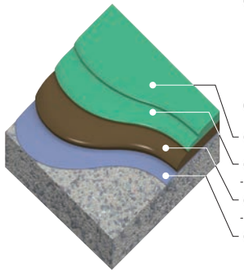
◎加圧透水性

防水工法	目視による透水の有無
A-1	透水なし
B-1	透水なし
無処理	加圧5分で透水し、漏水

[試験方法]
491kPaの圧力で1時間の水圧を与えた時の透水の有無を観察した。

防水工法の構成について

パラテックス防水工法は、基本的にプライマー、パラテックス防水層、保護層の 3 つの層で構成されています。防水層で構造物への水の浸入をしっかり防ぎ、保護層で防水層を摩耗や劣化などから守ります。この防水層と保護層は材料や配合比の違いによって様々な特長を持たせることができ、それらの組み合わせで施工箇所に適した防水工法を提供しています。



◎工法の見方

A-3 工法（A：Ⅰ、3：Ⅱ）

Ⅰ：防水層の仕様を表します
Ⅱ：保護層の種別を表します

●A-3 工法の場合

- ④カラーコート S 材（2回目）
- ③カラーコート S 材（1回目）
- ②パラテックス A 材 ――― パラテックス防水層
- ①パラテックスプライマー液 － プライマー

（④③：保護層）

Ⅰ：パラテックス防水層

パラテックス防水層は、耐水性、耐アルカリ性に優れた特殊変性のエチレン酢酸ビニル系共重合樹脂エマルション（パラテックス原液）と特殊アルミナセメントを主成分とする無機質粉体（パラテックス混和材）の混合物の塗膜です。
下地コンクリートとの付着性に優れ、アルミナセメントの水和反応により、安定した造膜性を示し、弾性のある防水層を形成します。
原液と混和材の配合比及び補強布（メッシュ）挿入の有無によって下記の 4 種類の防水層が主に使用されます。

仕　様	配合比（原液：混和材）	仕様の特性
A 仕様防水層	18：12	室内、ベランダ等比較的挙動の少ない下地に対応
C 仕様防水層	（原液でパラメッシュⅡ張り付け後）18：12	屋上等階下に居室等がある箇所に対応
C-BRD 仕様防水層	（原液で BR メッシュ張り付け後）18：20	長スパンの箇所等高度なひび割れ追従性、耐久性を求められる下地に対応
C-BRQ 仕様防水層	（原液と Q1 混和材で BR メッシュ張り付け後）18：20	速乾性に優れ、長スパンの箇所等 高度なひび割れ追従性、耐久性を求められる下地に対応
AP 仕様防水層	（APX シート張り付け、補強テープ張り付け後）18：20	通気緩衝シートにより下地の湿気、動きに対応
B 仕様防水層	18：30	水槽、地下内外壁等耐水圧性が求められる箇所に対応

Ⅱ：保護層

パラテックス防水層は、塗膜の表面特性から様々なセメント系材料、樹脂エマルション系材料との付着相性が良く、多彩な保護仕上げが可能です。
通常のモルタル保護、タイル張り仕上げ以外に、施工箇所の用途に応じた適切な仕上げ処理ができます。
A 仕様、C 仕様、C-BR（D、Q）仕様の保護層の番号は共通です。

仕上げ保護層	工　法	用　途
モルタル、タイル張り等 ※	A-1、B-1、C-1、C-BR（D、Q）-1	地下外壁、水槽、サッシ回り、歩行箇所等
カラーコート	A-2、C-2、C-BR（D、Q）-2、AP-2	軽歩行箇所
カラーコート S	A-3、C-3、C-BR（D、Q）-3	歩行箇所
トップコート V	A-5、C-5、C-BR（D、Q）-5、AP-5	軽歩行箇所、光沢仕上げ
ヒートバリアトップ	A-6、C-6、C-BR（D、Q）-6、AP-6	軽歩行箇所、光沢仕上げ、遮熱
パラコート	B-2	地下外壁、水槽（腐食性なし）
パラコートα	B-2α、B-2α-BR	水槽（腐食性なし）
パラコート EZ	B-3	水槽（雑排水等軽度の腐食性）
EP-800A	B-5A	飲料用水槽
EP-5500A	B-5A-U	飲料用水槽（屋外施設）
EP-GSS	B-4A（B-4B）	汚水槽、廃液槽等、下水処理施設
EP-GSX	B-6D（B-6C）	ビルピット（厨房排水系）、医療、工場廃液槽等、下水処理施設

※モルタル、タイル張り工事は別途工事となります。

パラテックス標準工法の適応箇所

パラテックス防水工法は、パラテックス防水層、保護層の組み合わせで様々な施工箇所にご使用いただけます。
求められる防水レベルに合わせてお選びください。

	仕様・工法	掲載頁	屋外									屋内							地下		水槽										
			ベランダ・バルコニー	屋上・ルーフバルコニー	開放廊下 ※2	外階段 ※2	サッシ回り	小庇	大庇	斜屋根	植栽	トイレ	浴室（浴槽を除く）	浴槽	厨房	フリーアクセスベースフロア	機械室 ※2	配管ピット	地下構造物（トンネル・共同溝等）	地下外壁・内壁 ※6	飲料用水槽（上水道施設）	飲料用水槽（屋外施設）	プール ※3	消火水槽 ※4・冷却水槽	防火水槽・雨水槽	雑排水槽（厨房排水系は除く）	厨房排水槽・雑排水槽（厨房排水系）	汚水槽・浄化槽	薬液槽・工業廃水槽・医療廃液槽	免震ピット
A仕様	A-1 ※1	P13～P14	○	／	○	○	○	○	／	○	○	○	○	／	○	／	○	○	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	A-2		○	／	○	○	／	○	／	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	A-3		○	／	○	○	／	○	／	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	A-5 ※8		○	／	○	○	／	○	／	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	A-6		○	／	○	○	／	○	／	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
C仕様	C-1 ※1	P15～P16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	○	／	○	○	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-2		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-3		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-5 ※8		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-6		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
C-BR（D、Q）仕様	C-BR（D、Q）-1 ※1	P17～P20	○	○	○	○	／	○	○	○	○	○	○	／	○	／	○	○	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-BR（D、Q）-2		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-BR（D、Q）-3		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-BR（D、Q）-5 ※8		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	C-BR（D、Q）-6		○	○	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
AP仕様	AP-2	P21～P22	／	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	AP-5 ※8		／	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
	AP-6		／	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
B仕様	B-1 ※1	P23～P26	／	／	／	／	／	／	／	／	○	／	○	○	／	／	／	○	○	○	／	／	○	／	○	○	／	／	※5	／	
	B-2		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	○	○	／	／	○	／	○	／	／	／	※5	／	
	B-2α		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	／	／	／	／	／	○	○	／	／	／	※5	／	
	B-2α-BR		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	※7	
	B-3		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	○	○	／	／	○	／	○	○	／	／	※5	／	
	B-4A		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	／	／	○	○	○	／	○	※5	／	
	B-5A		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	※5	／	
	B-5A-U		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	／	／	／	／	／	／	※5	／	
	B-6D		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	○	○	※5	／	
Q仕様	Q	P27	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	○	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／

○：適用可能　／：通常用いられない

※1：別途保護層（モルタル、タイル張り、トップコート等）が必要です。配管ピット、二重壁内部の場合は省略できます。
※2：軽歩行が前提です。
※3：タイル張り仕上げが前提です。塗装仕上げの場合はご相談ください。
※4：スプリンクラー等の消火設備に使用するもの。
※5：水質、濃度、水温等により適応可否が異なりますので、ご相談ください。
※6：EV ピットを含む。
※7：免震バンパー上部構造内のピット。
※8：A-4、C-4、C-BR（D、Q）-4、AP-4 工法は 2023 年 8 月をもって廃止となり、後継工法はそれぞれ A-5、C-5、C-BR（D、Q）-5、AP-5 工法となります。
〔注〕必ずしも上表の通りに対応できない場合もあります。また、通常用いられない工法であっても条件によっては採用される場合があります。

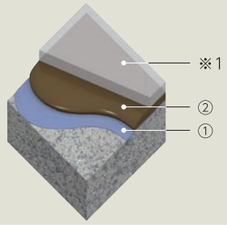
A 仕様 | 室内、ベランダ等比較的挙動の少ない下地に対応。

刷毛　ローラー　金コテ　吹付

施工適応箇所　工法仕様図　仕様　材料配合

A-1 工法

●トイレ ●浴室
●厨房・キッチン
●サッシ回り
●ベランダ
●バルコニー
●開放廊下
●外階段 ●小庇
●防水補強塗り



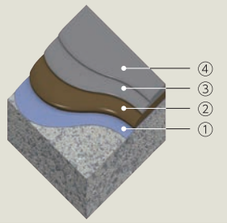
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス A 材	1.67

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	別途必要(モルタル、タイル等)　※1 配管トレンチピット、2 重壁内等は保護層が省略できます。					

A-2 工法

軽歩行用
ノンスリップ仕上げ

●ベランダ
●バルコニー
●開放廊下
●外階段
●小庇



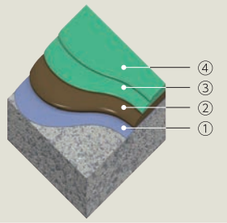
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス A 材	1.67
③カラーコート材(1回目)	0.7〜0.735
④カラーコート材(2回目)	0.5〜0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス A材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	③カラーコート材(1層目)	カラーコート 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 吹付	—	4〜12
	④カラーコート材(2層目)	カラーコート 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 吹付	—	4〜12

A-3 工法

歩行用
ノンスリップ仕上げ

●ベランダ
●バルコニー
●開放廊下
●外階段
●小庇



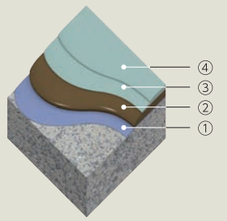
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス A 材	1.67
③カラーコート S 材(1回目)	0.7〜0.735
④カラーコート S 材(2回目)	0.5〜0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス A材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	③カラーコート S 材(1層目)	カラーコート S 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 吹付	—	4〜12
	④カラーコート S 材(2層目)	カラーコート S 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 吹付	—	4〜12

A-5 工法

軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

●ベランダ
●バルコニー
●開放廊下
●外階段
●小庇



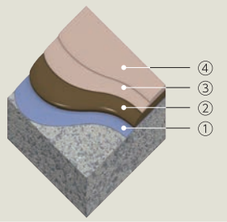
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス A 材	1.67
③トップコート V 材(1回目)	0.15
④トップコート V 材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス A材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	③④トップコート V 材(各層)	主剤 0.136 ＋ 硬化剤 0.014 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 吹付	60	3〜12

A-6 工法

遮熱軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

●ベランダ
●バルコニー
●開放廊下
●外階段
●小庇



	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス A 材	1.67
③ヒートバリアトップ材(1回目)	0.15
④ヒートバリアトップ材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス A材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	③④ヒートバリアトップ材(各層)	主剤 0.13 ＋ 硬化剤 0.02 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 吹付	90	3〜24

※下地については P45 をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。
＊：施工環境に応じて、防水材(原液＋混和材)重量の 5%まで水添加できます。

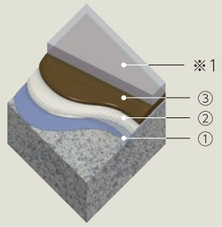
C仕様 | 屋上等階下に居室等がある箇所に対応

刷毛　ローラー　金コテ　吹付

C-1 工法

施工適応箇所
- ●浴室・厨房
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材	0.4〜0.44
③パラテックス A 材	1.67

材料配合

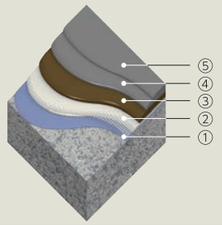
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラメッシュⅡ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.40〜0.44	刷毛 ローラー	—	6〜24
	③パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	別途必要　※1　配管トレンチピット、2 重壁内等は保護層が省略できます。					

C-2 工法

軽歩行用
ノンスリップ仕上げ

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材	0.4〜0.44
③パラテックス A 材	1.67
④カラーコート材(1回目)	0.7〜0.735
⑤カラーコート材(2回目)	0.5〜0.525

材料配合

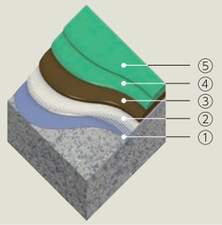
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラメッシュⅡ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.40〜0.44	刷毛 ローラー	—	6〜24
	③パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	④カラーコート材(1層目)	カラーコート 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12
	⑤カラーコート材(2層目)	カラーコート 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12

C-3 工法

歩行用
ノンスリップ仕上げ

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材	0.4〜0.44
③パラテックス A 材	1.67
④カラーコート S 材(1回目)	0.7〜0.735
⑤カラーコート S 材(2回目)	0.5〜0.525

材料配合

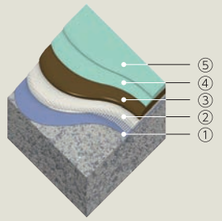
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラメッシュⅡ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.40〜0.44	刷毛 ローラー	—	6〜24
	③パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	④カラーコート S 材(1層目)	カラーコート S 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12
	⑤カラーコート S 材(2層目)	カラーコート S 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12

C-5 工法

軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材	0.4〜0.44
③パラテックス A 材	1.67
④トップコート V 材(1回目)	0.15
⑤トップコート V 材(2回目)	0.15

材料配合

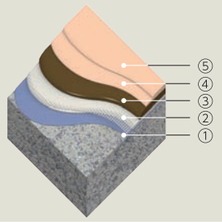
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラメッシュⅡ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.40〜0.44	刷毛 ローラー	—	6〜24
	③パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	④⑤トップコート V 材(各層)	主剤 0.136 ＋ 硬化剤 0.014 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 吹付	60	3〜12

C-6 工法

遮熱軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材	0.4〜0.44
③パラテックス A 材	1.67
④ヒートバリアトップ材(1回目)	0.15
⑤ヒートバリアトップ材(2回目)	0.15

材料配合

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②パラメッシュⅡ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.40〜0.44	刷毛 ローラー	—	6〜24
	③パラテックス A 材	パラテックス原液 1.00 ＋ A 混和材 0.67 ＊	1.67	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	12〜24
保護層	④⑤ヒートバリアトップ材(各層)	主剤 0.13 ＋ 硬化剤 0.02 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 吹付	90	3〜24

※下地については P45 をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。
＊：施工環境に応じて、防水材(原液＋混和材)重量の 5%まで水添加できます。

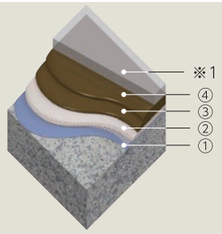
C-BRD仕様 | 長スパンの箇所等高度なひび割れ追従性、耐久性を求められる下地に対応

刷毛　ローラー　金コテ　吹付

施工適応箇所　工法仕様図　仕様　材料配合

C-BRD-1工法

- ●浴室・厨房
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



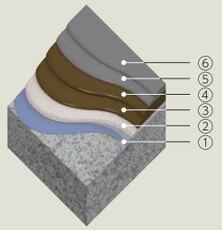
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	0.4～0.44
③パラテックス Q1 材(下塗り)	0.844～0.903
④パラテックス Q1 材(上塗り)	0.844～0.903

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10		—	0.5～3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.4～0.44		—	6～24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.40＋Q1 混和材 0.444＋水 0.059 以下)×2	(0.844～0.903)×2		60	6～24
保護層	別途必要　※1　配管トレンチピット、2 重壁内等は保護層が省略できます。					

C-BRD-2工法

軽歩行用
ノンスリップ仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



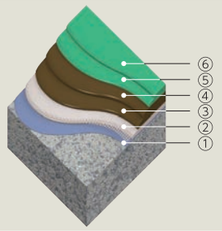
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	0.4～0.44
③パラテックス Q1 材(下塗り)	0.844～0.903
④パラテックス Q1 材(上塗り)	0.844～0.903
⑤カラーコート材(1回目)	0.7～0.735
⑥カラーコート材(2回目)	0.5～0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10		—	0.5～3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.4～0.44		—	6～24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.40＋Q1 混和材 0.444＋水 0.059 以下)×2	(0.844～0.903)×2		60	6～24
保護層	⑤カラーコート材(1層目)	カラーコート 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70～0.735		—	4～12
	⑥カラーコート材(2層目)	カラーコート 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50～0.525		—	4～12

C-BRD-3工法

歩行用
ノンスリップ仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



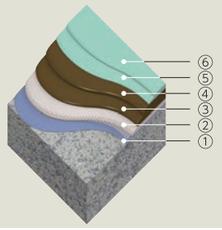
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	0.4～0.44
③パラテックス Q1 材(下塗り)	0.844～0.903
④パラテックス Q1 材(上塗り)	0.844～0.903
⑤カラーコート S 材(1回目)	0.7～0.735
⑥カラーコート S 材(2回目)	0.5～0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10		—	0.5～3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.4～0.44		—	6～24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.40＋Q1 混和材 0.444＋水 0.059 以下)×2	(0.844～0.903)×2		60	6～24
保護層	⑤カラーコート S 材(1層目)	カラーコート S 0.70 ＋ 水 0.035 以下	0.70～0.735		—	4～12
	⑥カラーコート S 材(2層目)	カラーコート S 0.50 ＋ 水 0.025 以下	0.50～0.525		—	4～12

C-BRD-5工法

軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



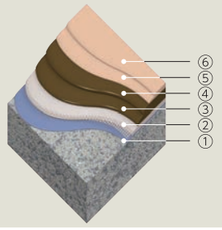
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	0.4～0.44
③パラテックス Q1 材(下塗り)	0.844～0.903
④パラテックス Q1 材(上塗り)	0.844～0.903
⑤トップコート V 材(1回目)	0.15
⑥トップコート V 材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10		—	0.5～3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.4～0.44		—	6～24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.40＋Q1 混和材 0.444＋水 0.059 以下)×2	(0.844～0.903)×2		60	6～24
保護層	⑤⑥トップコート V 材(各層)	(主剤 0.136 ＋ 硬化剤 0.014) × 2 回塗り	0.15×2		60	3～12

C-BRD-6工法

遮熱軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	0.4～0.44
③パラテックス Q1 材(下塗り)	0.844～0.903
④パラテックス Q1 材(上塗り)	0.844～0.903
⑤ヒートバリアトップ材(1回目)	0.15
⑥ヒートバリアトップ材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10		—	0.5～3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.40 ＋ 水 0.04 以下	0.4～0.44		—	6～24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.40＋Q1 混和材 0.444＋水 0.059 以下)x2	(0.844～0.903)×2		60	6～24
保護層	⑤⑥ヒートバリアトップ材(各層)	(主剤 0.13 ＋ 硬化剤 0.02) × 2 回塗り	0.15×2		90	3～24

※下地については P45 をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。

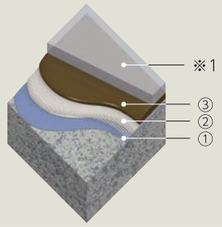
C-BRQ 仕様 | 速乾性に優れ、長スパンの箇所等高度なひび割れ追従性、耐久性を求められる下地に対応

刷毛　ローラー　金コテ　吹付

施工適応箇所　工法仕様図　仕様　材料配合

C-BRQ-1工法

- ●浴室・厨房
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



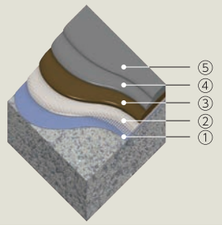
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材(下塗り)	1.52〜1.626
③パラテックス Q1 材(上塗り)	1.013〜1.084

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 + 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.72 + Q1 混和材 0.80 + 水 0.106 以下	1.52〜1.626	刷毛 ローラー	60	12〜24
	③パラテックス Q1 材	パラテックス原液 0.48 + Q1 混和材 0.533 + 水 0.071 以下	1.013〜1.084	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	6〜24
保護層	別途必要　※1　配管トレンチピット、2 重壁内等は保護層が省略できます。					

C-BRQ-2工法

軽歩行用
ノンスリップ仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



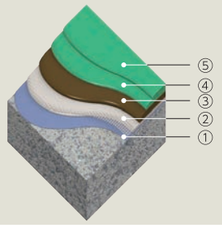
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材(下塗り)	1.52〜1.626
③パラテックス Q1 材(上塗り)	1.013〜1.084
④カラーコート材(1回目)	0.7〜0.735
⑤カラーコート材(2回目)	0.5〜0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 + 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.72 + Q1 混和材 0.80 + 水 0.106 以下	1.52〜1.626	刷毛 ローラー	60	12〜24
	③パラテックス Q1 材	パラテックス原液 0.48 + Q1 混和材 0.533 + 水 0.071 以下	1.013〜1.084	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	6〜24
保護層	④カラーコート材(1層目)	カラーコート 0.70 + 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12
	⑤カラーコート材(2層目)	カラーコート 0.50 + 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12

C-BRQ-3工法

歩行用
ノンスリップ仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



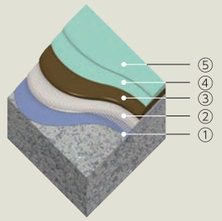
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材(下塗り)	1.52〜1.626
③パラテックス Q1 材(上塗り)	1.013〜1.084
④カラーコート S 材(1回目)	0.7〜0.735
⑤カラーコート S 材(2回目)	0.5〜0.525

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 + 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.72 + Q1 混和材 0.80 + 水 0.106 以下	1.52〜1.626	刷毛 ローラー	60	12〜24
	③パラテックス Q1 材	パラテックス原液 0.48 + Q1 混和材 0.533 + 水 0.071 以下	1.013〜1.084	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	6〜24
保護層	④カラーコート S 材(1層目)	カラーコート S 0.70 + 水 0.035 以下	0.70〜0.735	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12
	⑤カラーコート S 材(2層目)	カラーコート S 0.50 + 水 0.025 以下	0.50〜0.525	刷毛 ローラー 金コテ	—	4〜12

C-BRQ-5工法

軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



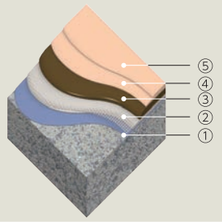
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材(下塗り)	1.52〜1.626
③パラテックス Q1 材(上塗り)	1.013〜1.084
④トップコート V 材(1回目)	0.15
⑤トップコート V 材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 + 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.72 + Q1 混和材 0.80 + 水 0.106 以下	1.52〜1.626	刷毛 ローラー	60	12〜24
	③パラテックス Q1 材	パラテックス原液 0.48 + Q1 混和材 0.533 + 水 0.071 以下	1.013〜1.084	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	6〜24
保護層	④⑤トップコート V 材(各層)	主剤 0.136 + 硬化剤 0.014 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 金コテ	60	3〜12

C-BRQ-6工法

遮熱軽歩行用
光沢滑らか仕上げ

- ●屋上
- ●ルーフバルコニー
- ●斜屋根
- ●大庇



	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材(下塗り)	1.52〜1.626
③パラテックス Q1 材(上塗り)	1.013〜1.084
④ヒートバリアトップ材(1回目)	0.15
⑤ヒートバリアトップ材(2回目)	0.15

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 + 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.72 + Q1 混和材 0.80 + 水 0.106 以下	1.52〜1.626	刷毛 ローラー	60	12〜24
	③パラテックス Q1 材	パラテックス原液 0.48 + Q1 混和材 0.533 + 水 0.071 以下	1.013〜1.084	刷毛 ローラー 金コテ 吹付	60	6〜24
保護層	④⑤ヒートバリアトップ材(各層)	主剤 0.13 + 硬化剤 0.02 × 2 回塗り	0.15×2	刷毛 ローラー 金コテ	90	3〜24

※下地については P45 をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。

AP 仕様 | 通気緩衝工法でシームレスかつ耐久性に優れています。

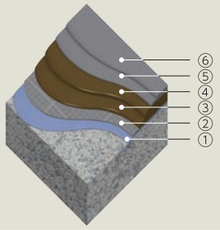
刷毛　ローラー　金コテ　吹付

AP-2 工法

軽歩行用
ノンスリップ仕上げ
(平場)

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①プライマー AP 液	0.1
②APX シート ※2、3	—
③パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
④パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
⑤カラーコート材(1回目)	0.7〜0.735
⑥カラーコート材(2回目)	0.5〜0.525

材料配合

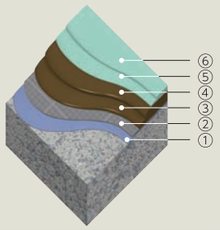
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①プライマー AP 液	プライマー AP 0.033 + 水 0.067	0.10		—	0.5〜5
通気緩衝シート	②APX シート ※2、3		—		—	—
防水層	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.45+Q1 混和材 0.5 + 水 0.067 以下)×2	(0.95〜1.017)×2		60	6〜24
保護層	⑤カラーコート材(1層目)	カラーコート 0.70 + 水 0.035 以下	0.70〜0.735		—	4〜12
	⑥カラーコート材(2層目)	カラーコート 0.50 + 水 0.025 以下	0.50〜0.525		—	4〜12

AP-5 工法

軽歩行用
光沢滑らか仕上げ
(平場)

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①プライマー AP 液	0.1
②APX シート ※2、3	—
③パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
④パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
⑤トップコート V 材(1回目)	0.15
⑥トップコート V 材(2回目)	0.15

材料配合

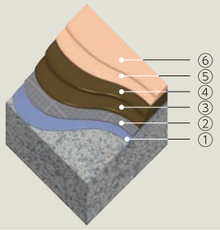
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①プライマー AP 液	プライマー AP 0.033 + 水 0.067	0.10		—	0.5〜5
通気緩衝シート	②APX シート ※2、3		—		—	—
防水層	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.45+Q1 混和材 0.5 + 水 0.067 以下)×2	(0.95〜1.017)×2		60	6〜24
保護層	⑤⑥トップコート V 材(各層)	主剤 0.136 + 硬化剤 0.014 × 2 回塗り	0.15×2		60	3〜12

AP-6 工法

遮熱軽歩行用
光沢滑らか仕上げ
(平場)

施工適応箇所
- ●屋上
- ●ルーフバルコニー

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①プライマー AP 液	0.1
②APX シート ※2、3	—
③パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
④パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
⑤ヒートバリアトップ材(1回目)	0.15
⑥ヒートバリアトップ材(2回目)	0.15

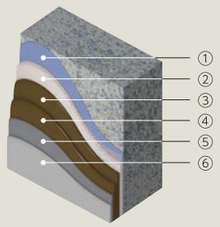
材料配合

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①プライマー AP 液	プライマー AP 0.033 + 水 0.067	0.10		—	0.5〜5
通気緩衝シート	②APX シート ※2、3		—		—	—
防水層	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.45+Q1 混和材 0.5 + 水 0.067 以下)×2	(0.95〜1.017)×2		60	6〜24
保護層	⑤⑥ヒートバリアトップ材(各層)	主剤 0.13 + 硬化剤 0.02 × 2 回塗り	0.15×2		90	3〜24

各工法立面部
パラメッシュⅡ補強

施工適応箇所
- ●屋上立上り
- ●ルーフバルコニー立上り

工法仕様図



仕様

	標準使用量(kg/㎡)
①プライマー AP 液	0.1
②パラメッシュⅡ張り材 ※1	0.4〜0.44
③パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
④パラテックス Q1 材	0.95〜1.017
⑤各工法トップコート材	
⑥各工法トップコート材	

材料配合

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①プライマー AP 液	プライマー AP 0.033 + 水 0.067	0.10		—	0.5〜5
防水層	②パラメッシュⅡ張り材 ※1	パラテックス原液 0.40 + 水 0.04 以下	0.40〜0.44		—	6〜24
	③④パラテックス Q1 材(各層)	(パラテックス原液 0.45+Q1 混和材 0.5 + 水 0.067 以下)×2	(0.95〜1.017)×2		60	6〜24
保護層	⑤⑥各工法トップコート材		—		—	—

※1. 立面部防水層の補強布には、パラメッシュⅡの代わりに BR メッシュ(バサルト繊維メッシュ)を用いることも可能です。
※2. APX シートの張り継ぎ部分、張り重ね部分は APXテープを補強張りします。
(平場の③および立面部①以降の工程を翌日以降に行う場合、テープ補強部全面へ Q1 材を塗布し雨仕舞いをしてください。)
※3. APX シートの端部は、JC テープを補強張りします。
(平場の③および立面部①以降の工程を翌日以降に行う場合、テープ補強部全面へ Q1 材を塗布し雨仕舞いをしてください。)
※4. 50 ㎡に 1 箇所程度の割合で、脱気筒を設置してください。

※下地については P45 をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。

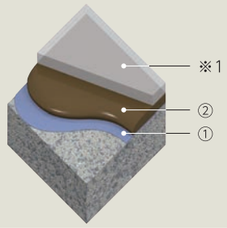
B 仕様 | 水槽、地下内外壁等耐水圧性が求められる箇所に対応。

刷毛　ローラー　金コテ　吹付

※施工適応箇所　工法仕様図　仕様　材料配合

B-1 工法

●地下外壁・内壁
●地下構造物等
先防水工法については、地下構造物防水カタログをご参照ください。
●植栽
●一般水槽



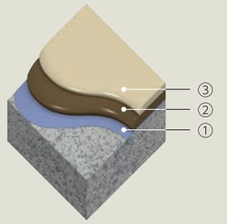
仕様	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12〜24
保護層	別途必要(モルタル、タイル等) ※1 配管トレンチピット、2 重壁内等は保護層が省略できます。					

B-2 工法

ポリマーセメント
保護材仕上げ

●地下外壁・内壁
●地下構造物等



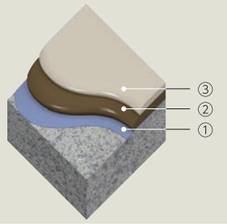
仕様	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート材	1.83〜1.875

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12〜24
保護層	③パラコート材	水 0.33〜0.375 ＋ パラコート 1.50	1.83〜1.875	ローラー 吹付	90	12〜36

B-2α 工法

硬質ウレタン
樹脂仕上げ

●水槽



仕様	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコートα材	0.5

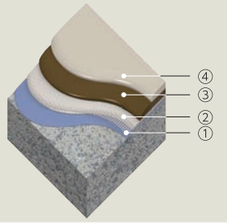
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12〜24
保護層	③パラコートα材	主剤 0.4 ＋ 硬化剤 0.1 ※ダレ止め剤と専用希釈剤を含まない塗布量	0.5	ローラー 金コテ	25	12〜48

※パラコートαのダレ止め・専用希釈剤の標準添加量(kg/ ㎡)
ダレ止め　0.01(2%)　　専用希釈剤　0.05(10%)

B-2α-BR工法

免震ピット用
硬質ウレタン
樹脂仕上げ

●免震ピット



仕様	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②BR メッシュ張り材	1.2
③パラテックス B 材	2.0
④パラコートα材	0.5

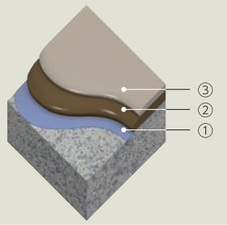
	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5〜3
防水層	②BR メッシュ張り材	パラテックス原液 0.45 ＋ B 混和材 0.75	1.2	ローラー 吹付	—	
	③パラテックス B 材	パラテックス原液 0.75 ＋ B 混和材 1.25 ＊	2.0	ローラー 吹付	60	12〜24
保護層	④パラコートα材	主剤 0.4 ＋ 硬化剤 0.1 ※ダレ止め剤と専用希釈剤を含まない塗布量	0.5	ローラー 金コテ	25	12〜48

※パラコートαのダレ止め・専用希釈剤の標準添加量(kg/ ㎡)
ダレ止め　0.01(2%)　　専用希釈剤　0.05(10%)

B-3 工法

エポキシモルタル
保護材仕上げ

●一般水槽
●軽度の耐食水槽



仕様	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EZ 材	1.0

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5〜3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12〜24
保護層	③パラコート EZ 材	主剤 0.125 ＋ 硬化剤 0.156＋ 粉体 0.75	1.0	ローラー	30	24〜48

※下地については P45 をご参照ください。
※施工適応箇所：詳細につきましては、P12 パラテックス標準工法の適応箇所をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。
施工完了から水張りまでには、標準 7 日間以上 常温(23℃)の養生が必要となります。
＊：施工環境に応じて、防水材(原液＋混和材)重量の 5%まで水添加できます。

B 仕様 | 水槽、地下内外壁等耐水圧性が求められる箇所に対応。

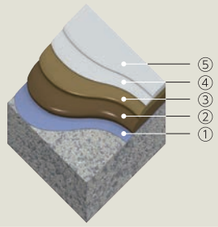
刷毛　ローラー　金コテ　吹付

※施工適応箇所　工法仕様図　仕様　材料配合

B-4A 工法

エポキシ防食材仕上げ

●一般水槽
●軽度の耐食水槽
●一定の耐食性を要求される水槽



工程③～⑤：日本下水道事業団「防食技術マニュアル」A 種対応

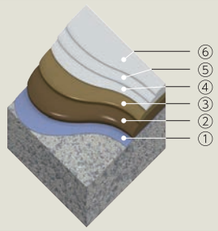
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EZ 材	1.0
④パラテックス EP-GSS 材(1回目)	0.2
⑤パラテックス EP-GSS 材(2回目)	0.2

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EZ 材	主剤 0.125 ＋ 硬化剤 0.156 ＋ 粉体 0.75	1.0	金コテ	30	24～48
	④⑤パラテックス EP-GSS 材(各層)	(主剤 0.167 ＋ 硬化剤 0.033) × 2 回塗り	0.20×2	刷毛 ローラー	40(1kg 一般型)	12～48

B-4B 工法

エポキシ防食材仕上げ

●一般水槽
●軽度の耐食水槽
●一定の耐食性を要求される水槽



工程③～⑥：日本下水道事業団「防食技術マニュアル」B 種対応

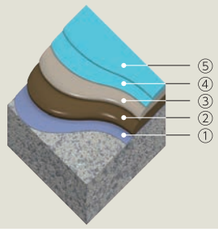
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EZ 材	1.0
④パラテックス EP-GSS 材(1回目)	0.2
⑤パラテックス EP-GSS 材(2回目)	0.2
⑥パラテックス EP-GSS 材(3 回目)	0.2

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EZ 材	主剤 0.125 ＋ 硬化剤 0.156 ＋ 粉体 0.75	1.0	金コテ	30	24～48
	④⑤⑥パラテックス EP-GSS 材(各層)	(主剤 0.167 ＋ 硬化剤 0.033) × 3 回塗り	0.20×3	刷毛 ローラー	40(1kg 一般型)	12～48

B-5A 工法

飲料水槽用エポキシ防食材仕上げ

●上水道施設等
(飲料用コンクリート水槽)



厚生労働省令水道施設基準適合

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EFⅡ材	0.8
④パラテックス EP-800A 材(1回目)	0.2
⑤パラテックス EP-800A 材(2回目)	0.2

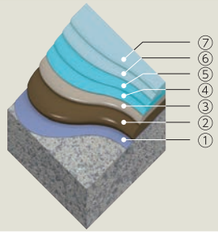
※EP-800A はビスフェノール A 型エポキシ樹脂です。
ビスフェノールF型のEP-800Fを使用する工法は B-5F工法になります。

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EFⅡ材	主剤 0.6 ＋ 硬化剤 0.2	0.8	金コテ	60	24～48
	④⑤パラテックス EP-800A 材(各層)	(主剤 0.16 ＋ 硬化剤 0.04) × 2 回塗り	0.20×2	刷毛 ローラー	40(1kg 一般型)	15～48

B-5A-U 工法

飲料水槽用エポキシ防食材仕上げ＋アクリルウレタントップコート仕上げ

●上水道施設等
(屋外施設)



厚生労働省令水道施設基準適合

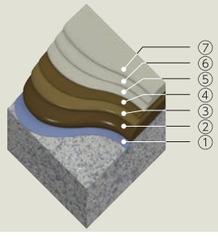
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EFⅡ材	0.8
④⑤パラテックス EP-800A 材	0.2
⑥⑦パラテックス EP-5500A 材	0.13

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EFⅡ材	主剤 0.6 ＋ 硬化剤 0.2	0.8	金コテ	60	24～48
	④⑤パラテックス EP-800A 材(各層)	(主剤 0.16 ＋ 硬化剤 0.04) × 2 回塗り	0.20×2	刷毛 ローラー	40(1kg 一般型)	15～48
	⑥⑦パラテックス EP-5500A 材(各層)	(主剤 0.089 ＋ 硬化剤 0.011 ＋ 希釈剤 0.03) × 2 回塗り	0.13×2	刷毛 ローラー	60	2～4

B-6C 工法

ビルピット用変性エポキシ防食材仕上げ

●廃液等貯留槽
●ビルピット・各種排水処理施設



工程③～⑦：日本下水道事業団「防食技術マニュアル」C 種対応

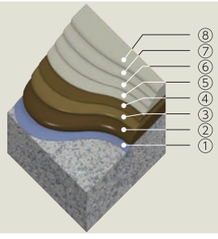
	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EZ 材	1.0
④パラテックス EP- プライマー X 液	0.15
⑤⑥⑦パラテックス EP-GSX 材	0.3

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EZ 材	主剤 0.125 ＋ 硬化剤 0.156 ＋ 粉体 0.75	1.0	金コテ	30	24～48
プライマー	④パラテックス EP- プライマー X 液	主剤 0.075 ＋ 硬化剤 0.075	0.15	刷毛 ローラー	60	16～24
耐食層	⑤⑥⑦パラテックス EP-GSX 材(各層)	(主剤 0.24 ＋ 硬化剤 0.06) × 3 回塗り	0.30×3	刷毛 ローラー 金コテ	40(1kg 一般型)	12～24

B-6D 工法

ビルピット用変性エポキシ防食材仕上げ

●廃液等貯留槽
●ビルピット・各種排水処理施設



工程③～⑧：日本下水道事業団「防食技術マニュアル」D 種対応

	標準使用量(kg/㎡)
①パラテックスプライマー液	0.1
②パラテックス B 材	3.2
③パラコート EZ 材	1.0
④パラテックス EP- プライマー X 液	0.15
⑤⑥⑦⑧パラテックス EP-GSX 材	0.3

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①パラテックスプライマー液	パラテックス原液 0.005 ＋ 水 0.095	0.10	刷毛 ローラー 金コテ	—	0.5～3
防水層	②パラテックス B 材	パラテックス原液 1.20 ＋ B 混和材 2.00 ＊	3.20	ローラー 吹付	60	12～24
耐食層	③パラコート EZ 材	主剤 0.125 ＋ 硬化剤 0.156 ＋ 粉体 0.75	1.0	金コテ	30	24～48
プライマー	④パラテックス EP- プライマー X 液	主剤 0.075 ＋ 硬化剤 0.075	0.15	刷毛 ローラー	60	16～24
耐食層	⑤⑥⑦⑧パラテックス EP-GSX 材(各層)	(主剤 0.24 ＋ 硬化剤 0.06) × 4 回塗り	0.30×4	刷毛 ローラー 金コテ	40(1kg 一般型)	12～24

※下地については P45 をご参照ください。
※施工適応箇所：詳細につきましては、P12 パラテックス標準工法の適応箇所をご参照ください。

[注]配合は、小数点第 3 位または第 4 位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。
施工完了から水張りまでには、標準 7 日間以上 常温(23℃)の養生が必要となります。
＊：施工環境に応じて、防水材(原液＋混和材)重量の 5%まで水添加できます。

パラテックス防水工法

ホルムアルデヒド規制対応　F☆☆☆☆

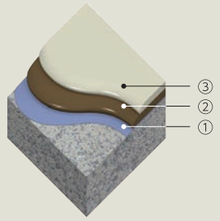
Q仕様

インテリジェントビルなど床下に電気配線やネットワーク配線などが敷設されている
フリーアクセスフロアやOAフロア等に適応しています。

施工適応箇所　工法仕様図　仕様

Q 工法

●フリーアクセス
ベースフロア



	標準使用量(kg/㎡)
①プライマー AP液	0.1
②パラテックス Q1材	1.27
③パラテックス Q2材	0.95

材料配合

	材料	配合(kg/㎡)	標準使用量(kg/㎡)	施工方法	可使時間(分)	標準乾燥時間(時)
プライマー	①プライマーAP液	プライマー AP 0.033 ＋ 水 0.067	0.10	刷毛 ローラー 吹付	—	0.5～5
防水層	②パラテックス Q1材	パラテックス原液 0.60 ＋ Q1混和材 0.67	1.27	金コテ	60	6～24
	③パラテックス Q2材	パラテックス Q2原液 0.45 ＋ Q2混和材 0.50	0.95	金コテ	60	6～24

[注]配合は、小数点第3位または第4位を四捨五入した塗布量値です。上記の標準乾燥時間は現場状況(外部、内部、温度、湿度差)により左右されます。
可使時間は常温(23℃)での数値です。

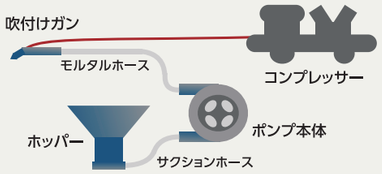
パラテックス吹付け工法

パラテックスは水性の材料で構成されているため、吹付け施工の際の火気による引火の危険や、臭気の拡散による周辺環境への影響がありません。

●吹付け機　ロータリーポンプ OKG-07M　岡三機工(株)製

吹付け機仕様

項　目	数　値
吐出量	Min2.3 ～ Max10.3ℓ/分
吐出圧	Max1.3MPa
ホッパー容量	27.0ℓ(80% 相当)
電源電圧	単相 AC100V 定格 7.0A 50Hz/60Hz
寸法	W425×D445×H320㎜
重量	31kg
ノズル口径	4.0 ～ 6.0㎜(特注品)



パラテックス吹付けのための希釈率

材　料	各材料に対する水による希釈率(%)
パラテックス A材	4 ～ 6
パラテックス Q1材	5 ～ 7
パラテックス B材	7 ～ 10

※その他保護仕上げ材等も吹付け施工可能なものがあります。
※防水層は標準使用量を2～3回に分けて重ね吹きします。

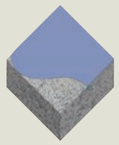
注意事項

- 飛散、機械内部への材料残存等により10%程度の材料ロスが発生します。
- 施工を一時休止する場合は機材の通水洗浄が必要になります。(洗浄水は国及び地方自治体の規則に従って処分してください。)
- 吹付け機一式(ポンプ本体、ホッパー＋サクションホース、モルタルホース、吹付けガン)の他に別途エンジンコンプレッサーが必要となります。
- ロータリーポンプの他、重力式カップガンによる吹付けも可能です。
- ロータリーポンプ吹付け機に関しては弊社までお問い合わせください。

各工程について

パラテックス防水工法の代表的な施工の様子です。

プライマー層

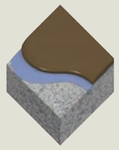


防水層補強塗り(別途工事)

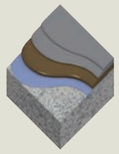
防水下地について

- ●C仕様、C-BR(D、Q)仕様には補強布を張るため、平坦性、平滑性が必要です。下地はコンクリート金コテ仕上げ程度でお願いします。
- ●コンクリート表層のレイタンス、付着物等はケレン除去してください。
- ●入り隅は通りよく直角、出隅は通りよく面取りとしてください。
- ●RC造以外の下地(ALC等)についてはご相談ください。
- ●その他、P45～P46(注意事項)をご参照ください。

防水層



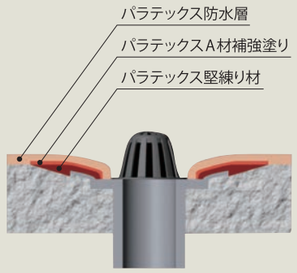
保護層



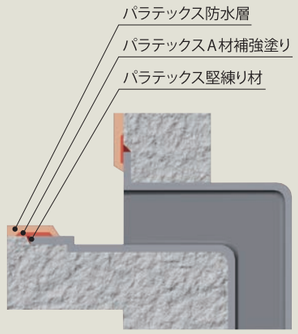
刷毛　ローラー　金コテ　吹付

下地処理及び特殊納まり標準施工図

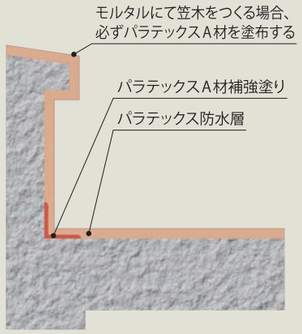
ドレン回り



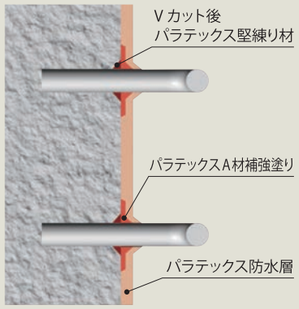
ドレン回り



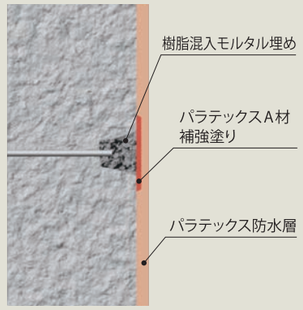
屋根・ベランダ



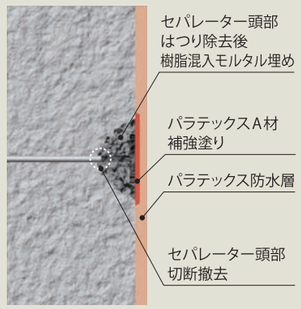
タラップ回り



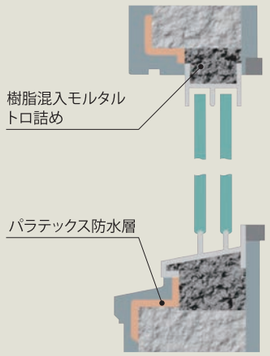
木コン



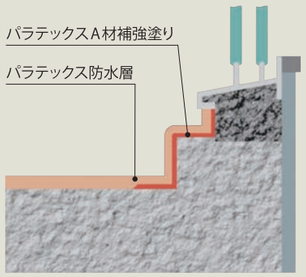
セパレーター



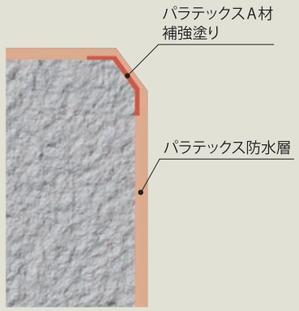
サッシ回り



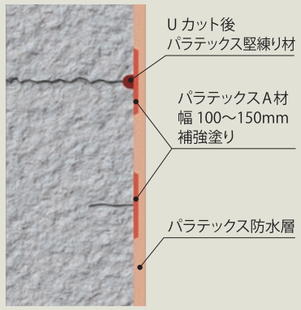
サッシ掃き出し



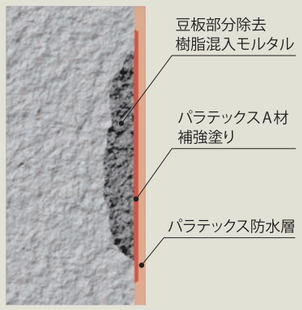
出　隅



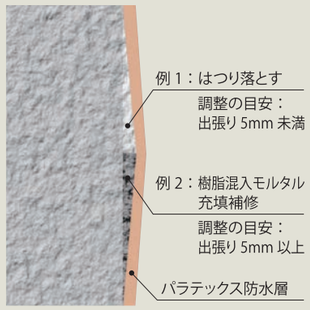
ひび割れ



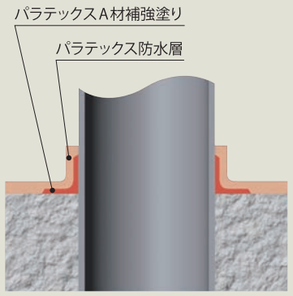
豆板



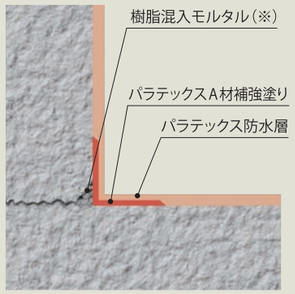
目違い



器具回り

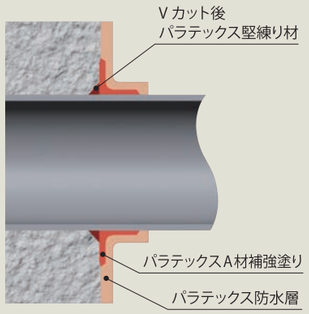


床・壁打継ぎ



※豆板、不純物がある場合は、必ず斫り、
樹脂混入モルタルを充填してください。

パイプ回り



●図ではプライマーを省略してあります。
●セパレーター、ドレン受け皿等鉄材の露出部には予め防錆処理をしてください。
●堅練り材は、パラテックス原液・混和材比1：3〜1：4に混練りしてください。
●堅練り材充填、A材補強塗り等は別途見積りとなります。
●下地調整が必要な場合は、パラベースNEO（P36）を推奨します。

工法の使用材料

	プライマー		防水原液						混和材				補強材					保護材				トップコート				防食材			
	プライマーAP	パラテックスEP-プライマーX	パラテックス原液 用途 プライマー(水希釈)	防水層(A材)	防水層(B材)	防水層(Q1材)	補強布張付け液	パラテックスQ2原液	A混和材	B混和材	Q1混和材	Q2混和材	パラメッシュⅡ	BRメッシュ	APXシート	JCテープ	APXテープ	パラコート	パラコートα	パラコートEZ	パラコートEFⅡ	カラーコート	カラーコートS	トップコートV	ヒートバリアトップ	パラテックスEP-GSS	パラテックスEP-GSX	パラテックスEP-800A	パラテックスEP-5500A
A-1 工法			○	○					○																				
A-2 工法			○	○					○													○							
A-3 工法			○	○					○														○						
A-5 工法			○	○					○															○					
A-6 工法			○	○					○																○				
B-1 工法			○		○					○																			
B-2 工法			○		○					○								○											
B-2α工法			○		○					○									○										
B-2α-BR 工法			○		○					○				○					○										
B-3 工法			○		○					○										○									
B-4A 工法			○		○					○										○						○			
B-4B 工法			○		○					○										○						○			
B-5A 工法			○		○					○											○							○	
B-5A-U 工法			○		○					○											○							○	○
B-6C 工法		○	○		○					○										○							○		
B-6D 工法		○	○		○					○										○							○		
C-1 工法			○	○			○		○				○																
C-2 工法			○	○			○		○				○									○							
C-3 工法			○	○			○		○				○										○						
C-5 工法			○	○			○		○				○											○					
C-6 工法			○	○			○		○				○												○				
C-BR(D,Q)-1 工法			○			○	○				○			○															
C-BR(D,Q)-2 工法			○			○	○				○			○								○							
C-BR(D,Q)-3 工法			○			○	○				○			○									○						
C-BR(D,Q)-5 工法			○			○	○				○			○										○					
C-BR(D,Q)-6 工法			○			○	○				○			○											○				
AP-2 工法	○					○					○		○	※	○	○	○					○							
AP-5 工法	○					○					○		○	※	○	○	○							○					
AP-6 工法	○					○					○		○	※	○	○	○								○				
Q 工法	○					○		○			○	○																	

※立面に BR メッシュを使用する場合があります。

■荷姿・必要量

材　料		容　量 (kg)	㎡当り使用量 (kg/㎡)	1缶(袋)当り施工面積 (概数)(㎡)	用　途	
パラテックス原液		18	0.005	3600.0	パラテックスプライマー液	
			1.00	18.0	A 材	
			1.20	15.0	B 材	
			0.40	45.0	パラメッシュⅡ張り材	
			0.40	45.0	BR メッシュ張り材(C-BRD)	
			0.60	30.0	Q1 材	Q
			0.80	22.5		C-BRD(2回合計)
			1.20	15.0		C-BRQ(2回合計)※1
			0.90	20.0		AP
パラテックス Q2 原液		18	0.45	40.0	Q2 材	
A 混和材		12	0.67	18.0	A 材	
B 混和材		15	2.00	7.5	B 材	
Q1 混和材		20	0.67	30.0	Q1 材	Q
			0.89	22.5		C-BRD(2回合計)
			1.34	15.0		C-BRQ(2回合計)※1
			1.00	20.0		AP
Q2 混和材		20	0.50	40.0	Q2 材	
パラメッシュⅡ		100m 巻	—	100.0(1本当り)	パラメッシュⅡ張り	
BR メッシュ		50m 巻	—	50.0(1本当り)	BR メッシュ張り	
APX シート		15m 巻	—	14.2(1本当り)	APX シート張り(注：働き幅 950mm)	
JC テープ		20m 巻	—	—		
APX テープ		50m 巻	—	—		
カラーコート		20	1.20	16.6	カラーコート材	A-2、C-2、C-BR(D、Q)-2、AP-2(2回合計)
			0.70	28.5		
カラーコート S		20	1.20	16.6	カラーコート S 材(2回合計)	
トップコート V		主剤 15 硬化剤 1.5	0.30	55.0	トップコート V 材(2回合計)、AP-5	
ヒートバリアトップ		主剤 13 硬化剤 2	0.30	50.0	ヒートバリアトップ材(2回合計)、AP-6	
パラコート		22.5	1.50	15.0	パラコート材	
パラコートα		主剤 12 硬化剤 3	0.50	30.0	パラコートα　※ダレ止め剤・専用希釈剤を添加	
ダレ止め剤		5※2	0.01	500.0	パラコートα用ダレ止め剤	
専用希釈剤		13.5※3	～0.05	～270.0	パラコートα専用希釈剤	
パラコート EZ	主剤	2	1.00	16.5(1セット当り)	パラコート EZ 材	B-3、B-4A(B)、B-6C(D)
	硬化剤	2.5	0.80	20.6(1セット当り)		EP-GS-A(B)、EP-GSX-A(B、C、D)
	粉体	12				
パラコート EFⅡ	主剤	15	0.80	25.0(1セット当り)	パラコート EF Ⅱ材	
	硬化剤	5				
パラテックス EP-GSS	主剤	15	0.40	45.0(1セット当り)	パラテックス EP-GSS 材	B-4A、GS-A(2回合計)
	硬化剤	3	0.60	30.0(1セット当り)		B-4B、GS-B(3回合計)
パラテックス EP-800A	主剤	16	0.40	50.0(1セット当り)	パラテックス EP-800A 材(2回合計)	
	硬化剤	4				
パラテックス EP-5500A		主剤 16 硬化剤 2	0.20	90.0	パラテックス EP-5500A 材(2回合計)	
専用シンナー		希釈剤 16L(13.5kg)	0.06	225.0	パラテックス EP-5500A 用シンナー(2回合計)	
パラテックス EP-GSX	主剤	12	0.90	16.7(1セット当り)	パラテックス EP-GSX 材	B-6C、GSX-C(3回合計)
	硬化剤	3	1.20	12.5(1セット当り)		B-6D、GSX-D(4回合計)
プライマー AP		16	0.033	480.0	プライマー AP 液	
		4.8	0.033	144.0		
パラテックス EP-プライマー X	主剤	4	0.15	53.3(1セット当り)	パラテックス EP- プライマー X 液	
	硬化剤	4				

※㎡当りの使用量は希釈水を含まない、製品のみの必要重量です。
※1. BR メッシュ張り材含む。
※2. 300g もあります。
※3. 1.5kg もあります。

防食被覆工法 | 上水道施設、下水処理施設及びビルピット用の防食被覆工法です。

下水処理施設、ビルピットの防食被覆工法

EP-GS 工法 / EP-GSX 工法

日本下水道事業団「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」適合

■施工適応箇所　下水処理施設、汚水槽、ビルピット

下水処理施設、ビルピットの腐食環境に対応したノンクロスエポキシ防食被覆工法。耐久性に優れ、安全施工と長期防食対応を実現し、LCコスト（設計から建設、運営、維持、廃棄までの総コスト）を低減します。

接着性　安定した付着力が得られます。

施工性　均一かつスムーズな施工が行えるノンクロス工法です。

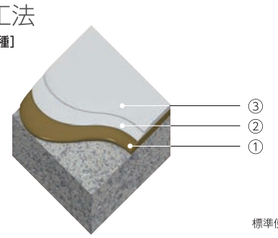
耐久性　長期にわたり防食性能を維持します。EP-GSX工法は耐有機酸性品質規格に適合します。

安全性　無溶剤型材料を使用し、安全に施工できます。

EP-GS-A 工法

［設計腐食環境 A 種］

■工法仕様図



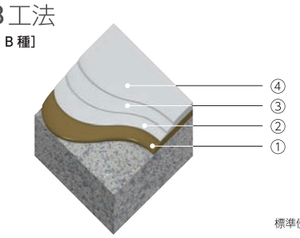
■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-GSS 材（1回目） …… 0.2
③パラテックス EP-GSS 材（2回目） …… 0.2

EP-GS-B 工法

［設計腐食環境 B 種］

■工法仕様図



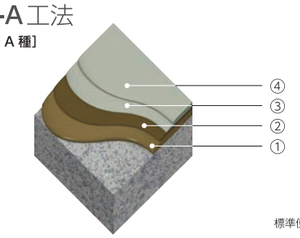
■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-GSS 材（1回目） …… 0.2
③パラテックス EP-GSS 材（2回目） …… 0.2
④パラテックス EP-GSS 材（3回目） …… 0.2

EP-GSX-A 工法

［設計腐食環境 A 種］

■工法仕様図



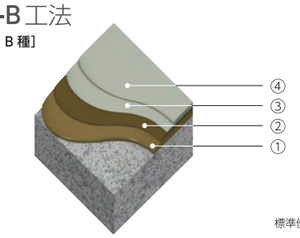
■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-プライマー X 材 …… 0.15
③パラテックスEP-GSX材（1回目） …… 0.2
④パラテックスEP-GSX材（2回目） …… 0.2

EP-GSX-B 工法

［設計腐食環境 B 種］

■工法仕様図



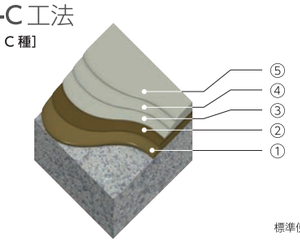
■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-プライマー X 材 …… 0.15
③パラテックスEP-GSX材（1回目） …… 0.3
④パラテックスEP-GSX材（2回目） …… 0.3

EP-GSX-C 工法

［設計腐食環境 C 種］

■工法仕様図



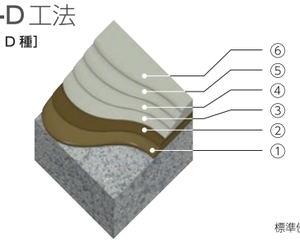
■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-プライマー X 材 …… 0.15
③パラテックスEP-GSX材（1回目） …… 0.3
④パラテックスEP-GSX材（2回目） …… 0.3
⑤パラテックスEP-GSX材（3回目） …… 0.3

EP-GSX-D 工法

［設計腐食環境 D 種］

■工法仕様図



■仕様　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EZ 材 …… 0.8
②パラテックス EP-プライマー X 材 …… 0.15
③パラテックスEP-GSX材（1回目） …… 0.3
④パラテックスEP-GSX材（2回目） …… 0.3
⑤パラテックスEP-GSX材（3回目） …… 0.3
⑥パラテックスEP-GSX材（4回目） …… 0.3

※上記各工法にB-1工法を組み合わせた仕様についてはP23～P24をご参照ください。

※下地についてはP45 をご参照ください。

上水道施設の防食被覆工法

EP-LG 工法／ EP-ライニング工法

厚生労働省令水道施設基準適合

日本水道協会JWWA K 143：2017適合

厳しい品質基準に適合した防食被覆工法です。

■施工適応箇所　飲料用水槽、各種上水道施設等

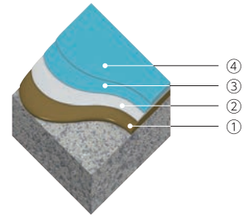
安全性　無溶剤型エポキシを使用し、安全に施工できます。厚生労働省令水道施設基準、日本水道協会JWWA K 143：2017に適合しています。

接着性　コンクリート構造物に対し、優れた接着性を有しています。

耐食性　上水道施設に使用される各薬品類からコンクリートを保護します。

耐久性　水質の保全と共に、長期にわたりコンクリート水槽の耐久性を維持します。

■工法仕様図



■仕様

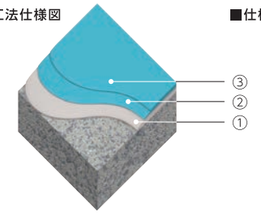
●EP-LG-A 工法（ビスフェノール A型）　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EF Ⅱ材 …… 0.8
②パラテックス EP-900A 材 …… 0.7
③パラテックス EP-800A 材 …… 0.2
④パラテックス EP-800A 材 …… 0.2

●EP-LG-F 工法（ビスフェノール F型）　標準使用量(kg/㎡)

①パラコート EF Ⅱ材 …… 0.8
②パラテックス EP-900A 材 …… 0.7
③パラテックス EP-800F 材 …… 0.2
④パラテックス EP-800F 材 …… 0.2

■工法仕様図



■仕様

●EP-ライニング A工法（ビスフェノール A型）　標準使用量(kg/㎡)

①パラテックス EP-900A 材 …… 0.7
②パラテックス EP-800A 材 …… 0.2
③パラテックス EP-800A 材 …… 0.2

●EP-ライニング F工法（ビスフェノール F型）　標準使用量(kg/㎡)

①パラテックス EP-900A 材 …… 0.7
②パラテックス EP-800F 材 …… 0.2
③パラテックス EP-800F 材 …… 0.2

外壁防水工法 | 建物の外装材を防水保護し、コンクリート構造物の長寿命化も図ります。タイル等の素材感を生かす透明タイプ防水材から、色や仕上げにこだわった工法などを提供します。

水性外壁透明防水工法

クリアコートeco

■施工適応箇所：外壁タイル面、ガラスブロック、石材、打ち放しコンクリート面等

完全水性化を実現したタイル仕上げ、コンクリート打ち放し面用の透明防水工法。
防水性、耐久性を備えた透明な塗膜で、施工時に周辺環境への影響がなく、美しい外観を保ちます。

意匠性　透明な塗膜のため、タイル仕上げやコンクリート打ち放し面がそのまま生かされます。

接着性　タイル面やコンクリート面への接着性が良好です。

耐久性　耐候性に優れているため、長期にわたり美観性、耐汚染性を発揮します。

防水性　追従性に優れた柔軟かつシームレスな塗膜が形成されるため、外壁からの水の浸入を防ぎ、タイルの剥落防止にも寄与します。

気密性及び遮塩性　気密性及び遮塩性に優れているため、コンクリートの中性化や塩害から建物を保護します。

水性外壁防水工法

パラテックス DW

■施工適応箇所：外壁
■仕上色　：36 色（トップコート）

防水工事に多くの優れた実績を持つパラテックス原液をベースに調製したフラット塗装型の水性外壁防水材。
柔軟な塗膜を形成し、新築はもちろん、旧下地への塗り重ねにも優れた防水効果を発揮します。

防水性　パラテックスDWの防水層はEVA樹脂の特性により柔軟で伸長性に優れ（伸び率610%）、下地の動きに追従し、外壁からの漏水を防止します。

適応性　パラテックスDW工法はパターンレスな仕上りになるため、既存の外壁模様をほぼそのままに、美装防水ができます。

耐久性　着色仕上げ材として、耐候性、耐汚染性に優れた各種トップコートを使用するため、長期にわたり塗膜の美観性を維持します。

安全性　標準仕様のプライマー、防水材、トップコートは水性材料のため、施工者や周辺環境にも優しい材料です。

弾性アクリルゴム系外壁防水材

パラトーン

■施工適応箇所：外壁
■仕上色　：36 色（トップコート）

柔軟な塗膜を保ち、優雅な外観を呈する高級外装化粧材です。高性能なアクリル系共重合樹脂を使用しているので、耐候性はもちろん、長期間にわたって弾性と光沢を維持し、そのパターンは建物にすぐれた美観を与えます。

防水性　柔軟性に富むアクリルゴム防水膜により、外壁からの漏水を防ぎます。

適応性　新築、改修を問わず幅広く使用できます。3種類の仕上げパターンから選択できます。

耐久性　耐候性、耐寒・耐熱性など耐久性に優れ、厳しい自然条件下でも建物を保護します。

安全性　標準仕様は全て水性で、安全で環境にやさしい材料です。

※上記の各防水工法については、詳しくは専用カタログをご参照ください。

その他の防水工法・関連製品

金属屋根 防水・防錆・遮熱工法

HYDRA［ハイドラ］

■施工適応箇所：金属屋根

ハイドラは柔軟性と強度に優れたアクリルゴム系防水材（ハイドラフレックス）と防錆プライマー、遮熱トップコートを組み合わせた折板、瓦棒葺き等の金属屋根専用工法です。

防水性 従来のアクリルゴム系防水材の性能を超えた伸長性、強度を備えたハイドラフレックスを防水層に採用したことで、優れた防水性能を実現。

防錆性 プライマーは、特殊変性エポキシと防錆顔料の結合効果による優れた防錆効果を発揮します。また、幅広い素地及び旧塗膜に対する付着性に優れています。

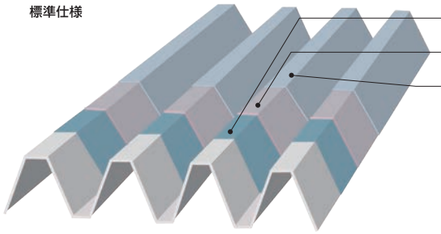
遮音性 防水塗膜の二次的効果により雨音による騒音を軽減します。

遮熱性 ヒートバリアトップが防水層表面の温度上昇を抑え、耐久性向上、エネルギーコスト削減に寄与します。

環境対応 プライマーは、鉛、クロムなどの有害な金属顔料を含まない弱溶剤型の塗料です。防水層、トップコートは水系材料で環境負荷を極力抑えた仕様です。

施工性 各材料とも低タックで作業性に優れスピーディーな施工が可能です。

標準仕様



①プライマー　メタルロック：0.15kg/㎡×1回
②防水層　ハイドラフレックス：0.3kg/㎡×2回
③トップコート　ヒートバリアトップ：0.15kg/㎡×2回

■仕上色

シルバーグレー　ホワイトグレー　アースグリーン　テラコッタ

ウレタン塗膜防水材

JIS A 6021[屋根用塗膜防水材]ウレタンゴム系高伸長形（旧1類）

U-HIT［ユーヒット］

■施工適応箇所：ルーフバルコニー、屋上、開放廊下、バルコニー等
■仕上色　：グレー、グリーン

U-HITは工期の短縮につながる速硬化性と環境への配慮を兼ね備えた、ウレタン塗膜防水材です。

安全性

■MBOCAを含みません
U-HITは化学物質審査規制法において指定化学物質とされている「MBOCA」を含んでおりません。

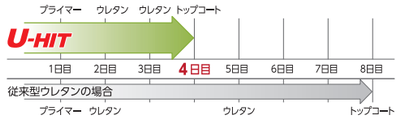
■芳香族有機溶剤を含みません※
シックハウス症候群で規制されている、トルエン、キシレンを全く使用していないため、環境にやさしい材料です。
※プライマー、仕上げ層共、トルエン、キシレン非含有タイプを使用した場合

■以下の制度や基準に適合しています
◎「学校環境衛生の基準」（文部科学省）　◎「建築基準法」（国土交通省）　◎「住宅性能表示制度」（国土交通省）

工期短縮

■優れた速硬化性
厳冬期でも翌日には硬化する優れた速硬化性をそなえています。促進剤の使用により夏季には1日2工程も可能なため、「U-HIT」なら年間を通じて工期短縮に貢献します。

■冬場の施工例



その他特長

■優れた柔軟性
伸縮性に優れた塗膜を形成し、コンクリート下地に生じる亀裂に追従して水の浸入を防ぎます。

■美しい仕上り
レベリング性に優れており、平滑で美しい仕上りを実現します。また、複雑な部位にも継ぎ目のないシームレスな塗膜を形成します。

■JISが保証する品質
「JIS A 6021[屋根用塗膜防水材]ウレタンゴム系高伸長形（旧1類）」として認可されています。

一材型塗膜防水材

パラウエイ

■施工適応箇所：サッシ回り、配管回り、木コン、打継ぎ等への部分補強防水、小規模バルコニー、廊下、庇等

パラウエイは粉末タイプの一材型ポリマーセメント系塗膜防水材です。
水と混ぜて塗布することにより、すぐれた防水性を発揮します。

施工性 特殊粉末樹脂と無機材をプレミックスした製品であり、水を加えて攪拌するだけでポリマーセメント系塗膜防水材ができます。

品　質 樹脂と無機材が所定の割合で混合されているため、現場での配合ミスの心配がなく常に安定した品質が得られます。

環境対応 梱包はポリエチレン袋と段ボール箱のため、空き缶などの廃棄物の削減、環境負荷低減になります。

※上記の各防水工法については、詳しくは専用カタログをご参照ください。

仕上一体型塗膜防水材

パライージー

■施工適応箇所：バルコニー、廊下、階段、パラペット、住宅基礎等

防水材とトップコートの性能を兼ね備えた仕上一体型塗膜防水材
トップコートが不要なワンデイ工法のため工期を大幅に短縮でき、改修工事にも優れた性能を発揮します。

施工性 刷毛、ローラー、吹付けで簡単施工。乾燥が速く、さらにトップコートが不要なため、従来の防水材に比べて大幅な工期短縮ができます。

美観性 撥水性があり、汚れが付着した場合でも容易に洗浄でき、美観性を損ないません。

防水性 柔軟な塗膜が形成されるため、下地にクラックが生じた場合でも追従します。

耐久性 耐水性、耐酸性、耐アルカリ性、耐候性、接着性に優れているため、長期にわたり防水機能を発揮します。

安全性 水性材料のため、火気や中毒の心配がなく、居住者のいる改修工事でも安全に施工できます。

■仕上色

シルバーグレー　ナチュラル　アースグリーン　テラコッタ

ケイ酸質系塗布防水材

OSMOTIGHT P、I［オスモタイト P、I］

■施工適応箇所：地下内外壁、各種水槽、エレベーターピット、トレンチピット等

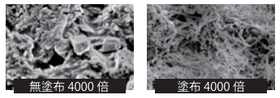
特殊成分（ケイ酸質微粉末）による、コンクリートのミクロな組織で起こる針状結晶を生成する現象を利用した防水材です。
コンクリート本体の損傷が起きない限り、半永久的な防水効果が得られます。
国土交通省公共建築工事標準仕様書 C-SUP・C-SUI 該当

品　質 日本建築学会「JASS 8（防水工事）」に規定されている「ケイ酸質系塗布防水材」規格に適合している高い防水性を発揮する防水材です。

施工性 作業性が良好です。プレミックス製品で所定量の水と撹拌するだけで施工できます。

躯体保護 躯体表面に直接塗布することにより、特殊成分が躯体内部に浸透し、塗布層が躯体と一体化し、コンクリート表面を保護します。

■コンクリート内部



オスモタイト P

ポリマーセメント系仮防水材兼下地調整材

仮防水材 OZ

防水改修工事における、既存防水撤去箇所の仮防水として防水効果を発揮し、工事中の漏水から建物を守ります。

施工性 コテ、刷毛、ローラー何れの施工でも滑らかな作業性が得られ、造膜性も良好です。

接着性 各種下地や新設防水材との接着性が良好です。

■適応下地：
・コンクリート、モルタル　・アスファルト防水撤去箇所
・ゴムシート防水撤去箇所　・塩ビシート防水撤去箇所
・ウレタン塗膜防水撤去箇所（通気緩衝シート撤去箇所を含む）
・FRP防水撤去箇所　・ポリマーセメント系塗膜防水等

■新設防水材：
・アスファルト防水（熱工法）　・改質アスファルト防水（冷工法）
・改質アスファルト防水（トーチ工法）　・ウレタン塗膜防水
・ゴムシート防水　・塩ビシート防水
・ポリマーセメント系塗膜防水
（勾配調整モルタル等の施工も可能です）

カチオン系下地調整材

パラベースNEO

アクリル系エマルションと無機質粉体がセットになった、カチオン系下地調整材です。
各種下地との接着性及びパラテックスの接着性が良好です。

施工性 下地や上塗り材との接着性に優れています。コテ切れがよく、平坦な下地が作りやすく、5mm以下の凹凸まで下地調整可能です。

環境対応 環境に優しい経済的なパッケージ。

■用途：各種下地の下地調整
●コンクリート、モルタルの不陸調整
●タイル面改装時の下地調整
●吹付タイル等、5mm 以下の凹凸面の改装時の下地調整
●アクリル、エポキシ、ウレタン塗装面の下地調整
●溶剤系仕上材を塗る場合の下地調整

■適応下地：
モルタル、コンクリート、陶磁器質タイル、石材、アクリル、エポキシ、ウレタン塗装面等

※上記の各防水工法については、詳しくは専用カタログをご参照ください。

製品一覧

パラテックス原液（防水原液）

耐水性、耐アルカリ性に優れた特殊変性のエチレン酢酸ビニル系共重合樹脂エマルションであり、各種防水工法の基本材料です。

●外観／乳白色液体
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量

1缶当り施工面積（概数）

プライマー液	水 20 倍希釈	3,600.0㎡
A材	A 混和材 1 袋混合	18.0㎡
B材	B 混和材 2 袋混合	15.0㎡
パラメッシュⅡ張り材	水 10% 以内希釈	45.0㎡
BR メッシュ張り材（C-BRD）	水 10% 希釈	45.0 ㎡
Q1材（C-BR（D、Q）、AP 仕様）	Q1混和材を混合後、7% の水で希釈	C-BRQ（BRメッシュ張り材含む）：15.0 ㎡ C-BRD：22.5 ㎡ AP:　20 ㎡
Q1材（Q 工法）	Q1混和材混合	30.0㎡

パラテックスＡ混和材（防水混和材）

パラテックス原液とともに使用する各種防水工法の基本材料です。

●外観／茶褐色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 12kg
●使用量・1袋当り施工面積（概数）
　A材：18.0㎡

パラテックスＢ混和材（防水混和材）

パラテックス原液とともに使用する各種防水工法の基本材料です。

●外観／茶褐色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 15kg
●使用量・1袋当り施工面積（概数）
　B材：7.5㎡

パラテックスＱ2原液（ベースフロア専用原液）

フリーアクセスベースフロア専用の防水材。防水性、吸湿性、防塵性、支持脚接着性に優れ、デジタルPBXやLANなどを備えたインテリジェントビルの二重床に対応。

●外観／白色液体
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量・1缶当り施工面積（概数）
　Q2材：40.0㎡（Q2混和材と混合）

プライマー AP（水性アクリル樹脂プライマー）

樹脂粒子径が極めて小さい特殊共重合のアクリル系エマルションで、コンクリートへの浸透性が良く、防水層の接着性を高めます。

●外観／乳白色液体
●荷姿・容量／石油缶タイプ 16kg
　ポリタンクタイプ 4.8kg
●使用量・1缶当り施工面積（概数）
プライマー AP液
（AP、Q 工法、パライージー、DW、パラトーン）
石油缶タイプ：480 ㎡
ポリタンクタイプ：144 ㎡

パラテックスＱ1混和材（防水混和材）

C-BR工法、AP工法、Q工法に使用する防水材料で、パラテックス原液に混和します。Q工法の場合、下塗り用として使用します。

●外観／茶褐色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 20kg
●使用量・1袋当り施工面積（概数）
　Q1材（Q 工法）：30.0㎡
　　（C-BRD 仕様）：22.5㎡
　　（C-BRQ仕様、BR メッシュ張り材含む）：15.0㎡
　　（AP 仕様）：20 ㎡

パラテックスＱ2混和材（ベースフロア専用混和材）

Q工法の防水材料です。パラテックスQ2原液に混和して、Q工法上塗り用に使用します。

●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 20kg
●使用量・1袋当り施工面積（概数）
　Q2 材：40.0㎡（Q2原液と混合）

パラメッシュⅡ（C 仕様防水層補強用クロス）

2軸絡み織ガラス繊維でパラテックス原液とのなじみがよく、C仕様、AP工法立上りにおける防水層の補強布として使用します。柔軟性に優れ下地形状に対応した張り付けが可能です。

●外観／白色シート状
●荷姿・容量／ 104cm 幅 ×100m 巻
　ダンボール箱梱包
　カット品200mm幅あり
●使用量・1本当り施工面積（概数）
　100.0㎡

BR メッシュ（C-BR（D、Q）仕様用防水層補強用クロス）

パラテックスC-BR（D、Q）仕様、APXに使用する高強度バサルト繊維メッシュです。

●外観／褐色シート状
●荷姿・容量／ 104cm 幅 ×50m 巻
　クラフト紙包装
●使用量・1本当り施工面積（概数）
　50.0㎡

APX シート（通気緩衝シート）

ブロック状に配置された改質アスファルト自着層を持つ、通気緩衝複合シートです。

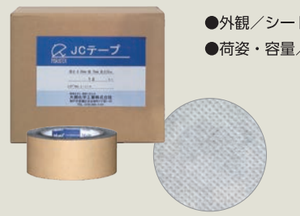
●外観／シート状
●荷姿・容量／ 1,035mm 幅 ×15m 巻
　（働き幅 950mm）
　17.5 kg /15m
　クラフト紙包装
●使用量・1本当り施工面積（概数）
　14.2 ㎡

パラテープ（補強テープ）

コンクリート・モルタル・スレート・金属面への接着性に優れた防水補強用のテープです。

●外観／白色帯状
●荷姿／ 84mm 幅 ×25m 巻
　ダンボール箱梱包

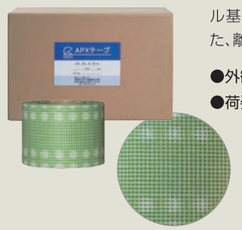
JC テープ



ポリプロピレン不織布の基材にブチルゴムをセットした防水補強テープです。

●外観／シート状
●荷姿・容量／ 50mm 幅 ×20m 巻
　75mm 幅 ×20m 巻
　ダンボール箱梱包
　50mm 幅 16 個入り
　75mm 幅 12 個入り

APX テープ



APXシート専用の継手処理用テープです。特殊コーティングを施したポリエステル基材にポリエステルメッシュをセットした、離型フィルムなしの自着テープです。

●外観／緑白色シート状
●荷姿・容量／ 90mm 幅 ×50m 巻
　ダンボール梱包箱
　20 個入り

カラーコート（骨材入りトップコート材／軽歩行用）

水性樹脂を使用した、微粒硅砂配合のトップコート材。耐水性に優れ、屋上、バルコニー、庇等の防水層化粧保護材として使用します。※カラーコートSとは色調が異なります。

●色調※／ホワイトグレー・シルバーグレー・
　グレー・ライトグリーン
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 20kg
●使用量・1缶当り施工面積（概数）
　A-2、C-2、C-BR（D、Q）-2、AP-2 工法：16.6㎡

カラーコート S（骨材入りトップコート材／歩行用）

アクリル樹脂を使用したトップコート材で、耐摩耗性に優れます。出入り、歩行の頻繁なベランダ、廊下等に防滑仕上げができます。※カラーコートとは色調が異なります。

●色調※／シルバーグレー・グレー・
　グリーン・ブラウン
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 20kg
●使用量・1缶当り施工面積（概数）
　A-3、C-3、C-BR(D、Q)-3 工法：16.6㎡

※トップコート類の色調のバリエーションは、予告なく変更となる場合がございますので、ご了承ください。

製品一覧

トップコートV（トップコート材／軽歩行用）

水性アクリルウレタン樹脂を主成分とした2液型のトップコート材で、光沢保持性と耐候性に優れています。

●色調※／シルバーグレー・ナチュラル・
アースグリーン・テラコッタ
●外観／主剤・着色液体
硬化剤・透明液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 15kg
硬化剤・2L 角缶 1.5kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
A-5、C-5、C-BR（D、Q）-5、AP-5 工法 :55.0 ㎡

ヒートバリアトップ（遮熱型トップコート材／軽歩行用）

水性アクリルウレタン樹脂を主成分とした2液型のトップコート材で、光沢保持性と耐候性に優れた遮熱型の材料（高日射反射率塗料）です。

●色調※／シルバーグレー・ホワイトグレー・
テラコッタ・アースグリーン
●外観／主剤・着色液体
硬化剤・淡黄色液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 13kg
硬化剤・2L 角缶 2kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
A-6、C-6、C-BR（D、Q）-6、AP-6 工法 :50.0 ㎡
ハイドラ :50.0 ㎡

パラコート（パラテックス防水層保護材）

セメントと細粒骨材に粉末樹脂等をあらかじめ配合してあり、水と混練りするだけで塗布できます。平滑性、耐摩耗性に優れた薄塗り型の防水層保護材です。

●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／ペール缶 22.5kg
●使用量・1缶当り施工面積（概数）
B-2 工法：15.0㎡

作業環境によっては乾燥収縮によるひび割れや色ムラが発生することがありますが、保護・防水機能に影響を及ぼすものではありません。

パラコートα（硬質ウレタン樹脂保護材）

2液型硬質ウレタン樹脂による水槽防水用の保護材です。塗膜は水密性に優れ貯留水へのアルカリの溶出を抑止します。

●外観 / 主剤・グレー色液体
硬化剤・茶褐色液体
●荷姿・容量 / 主剤・石油缶 12 kg
硬化剤・4L 角缶 3 kg
●使用量・1 セット当り施工面積（概数）
B-2α、B-2α-BR 工法：30.0 ㎡

パラコートα用ダレ止め剤

非晶質シリカ系のダレ止め剤です。チクソ性を付与しダレを止めると共に、施工性を改善します。

●外観 / 白色粉体
●荷姿・容量 / 紙袋 5 kg（アエロジル 200）
ダンボール梱包 300g
●使用量（目安使用量）・
紙袋 5 kg当り：500 ㎡
ダンボール梱包 300g：30 ㎡
（パラコートα）

パラコートα専用希釈剤

イソパラフィン系で極めて低臭気の希釈剤です。

●外観 / 透明液体
●荷姿・容量 / 石油缶 13.5 kg（18L）
2L 角缶 1.5 kg（2L）
●使用量（目安使用量）・
石油缶 13.5 kg：270 ㎡
2L 角缶 1.5 kg：30 ㎡

※トップコート類の色調のバリエーションは、予告なく変更となる場合がございますので、ご了承ください。

パラコートEZ（水性エポキシ樹脂モルタル）

エマルション型の反応性ポリマーとセメント系無機材を混合する3成分型の防水工法用保護材です。また、各種下地へも強固に接着し、下地調整材としても使用できます。

●外観／主剤・白色液体
硬化剤・淡黄色液体
粉体・灰白色粉体
●荷姿・容量／主剤・ポリ容器 2kg
硬化剤・ポリ容器 2.5kg
粉体・ビニール袋 12kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
B-3、B-4A（B）、B-6C（D）工法 :16.5 ㎡
EP-GS、EP-GSX 工法 :20.6 ㎡

パラコート EFⅡ（水性エポキシ樹脂モルタル）

日本水道協会のJWWA K 143:2017のエポキシ系ポリマーセメント素地調整材の規定に適合する耐久性、安全性に優れた2成分型のポリマーセメントです。

●外観／主剤・灰色粉体
硬化剤・淡黄白色液体
●荷姿／主剤・ビニール袋 15kg
硬化剤・ポリ容器 5kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
EP-LG、B-5A 工法：25㎡

パラテックスEP-プライマーX（水性エポキシ樹脂プライマー）

EP-GSX専用のプライマー材です。下地との密着性を向上させ、ピンホール防止にも役立ちます。

●外観／主剤・白色液体
硬化剤・褐色半透明液体
●荷姿・容量／主剤・ポリ容器 4kg
硬化剤・ポリ容器 4kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
EP-プライマーX 液：53.3 ㎡

パラテックス EP-GSS（無溶剤型エポキシ樹脂）

日本下水道事業団「防食技術マニュアル」A種、B種に適合した無溶剤型のエポキシ樹脂であり、貯留物の腐食性が少ない下水処理施設などに対応した防食被覆材です。

●外観／主剤・灰色液体
硬化剤・黄褐色液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 15kg
硬化剤・1/4 石油缶 3kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
EP-GSS 材（B-4A、EP-GS-A 工法）：45.0 ㎡
EP-GSS 材（B-4B、EP-GS-B 工法）：30.0 ㎡

パラテックス EP-GSX（無溶剤型変性エポキシ樹脂）

日本下水道事業団「防食技術マニュアル」C種、D種に適合した無溶剤型のエポキシ樹脂です。ピルピット、排水処理施設等の貯留物に含まれる有機酸にも対応した防食被覆材です。

●外観／主剤・灰色ペースト状
硬化剤・黄褐色液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 12kg
硬化剤・1/4 石油缶 3kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
EP-GSX 材（B-6C、EP-GSX-C 工法）：16.7 ㎡
EP-GSX 材（B-6D、EP-GSX-D 工法）：12.5 ㎡

※本製品は施工後に色調が黄色く変化しますが、材料特性によるものであり、防食性能に影響はありません。

パラテックス EP-900A（ビスフェノールA型エポキシ樹脂）

EP-ライニング、EP-LG工法に使用します。厚生労働省令水道施設基準、日本水道協会JWWA K 143:2017の溶出試験に適合した無溶剤型エポキシ樹脂です。

●外観／主剤・白色ペースト状
硬化剤・黒色ペースト状
●荷姿／主剤・石油缶 20kg
硬化剤・1/2 石油缶 10kg
●使用量・1セット当り施工面積（概数）
EP-ライニング、EP-LG 工法：42.9 ㎡

製品一覧

パラテックスEP-800A（ビスフェノールA型エポキシ樹脂）

厚生労働省令水道施設基準、日本水道協会JWWA K 143:2017の溶出試験に適合した無溶剤型エポキシ樹脂です。

●外観／主剤・青色液体
　　硬化剤・淡黄色液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 16kg
　　硬化剤・1/3 石油缶 4kg
●使用量・1セット当り施工面積(概数)
　B-5A、EP-ライニング、EP-LG 工法：50.0 ㎡

パラテックスEP-800F（ビスフェノールF 型エポキシ樹脂）

厚生労働省令水道施設基準、日本水道協会JWWA K 143:2017の溶出試験に適合した無溶剤型エポキシ樹脂です。

●外観／主剤・青色液体
　　硬化剤・淡黄色透明液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 20kg
　　硬化剤・6L 角缶 5kg
●使用量・1セット当り施工面積(概数)
　EP-LG、EP-ライニング工法：62.5 ㎡

パラテックスEP-5500A（トップコート材／アクリルウレタン樹脂）

溶剤型アクリルウレタン樹脂を主成分とし、太陽光のあたる屋外浄水施設コンクリート水槽等のトップコートとして使用します。

●色調／ライトブルー・グレー
●荷姿・容量／主剤・石油缶 16kg
　　硬化剤・2.5L 角缶 2kg
　　専用シンナー・石油缶 16L
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　B-5A-U 工法 :90.0 ㎡

クリアコート eco

外壁透明防水工法クリアコートeco専用の1液型水性中塗り材です。

●外観／白色液体
●荷姿・容量／石油缶 15kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　30 ㎡

クリアコートシーラー

外壁透明防水工法クリアコートeco専用の1液型水性シーラー材です。

●外観／白色液体
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　180 ㎡

クリアコートトップ

外壁透明防水工法クリアコートeco専用の1液型水性トップコート材です。

●外観／白色液体
●荷姿・容量／石油缶 9kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　30 ㎡

シーラー #200（改修・金属面用溶剤系シーラー）

コンクリート・モルタル・スレートをはじめ、金属面等への付着性に優れた、溶剤系シーラーです。

●外観／淡黄透明液体
●荷姿・容量／石油缶 15kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　100 ㎡

シーラー #300（改修用弱溶剤系プライマー）

コンクリート・モルタル・スレートへの付着性に優れた、弱溶剤系シーラーです。

●外観／淡黄褐色透明液体
●荷姿・容量／石油缶 14kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　93 ㎡

パラトーン主材

柔軟性に富み耐久性に優れた外装用アクリルゴム系防水材です。

●外観／白色ペースト状
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　S 工法：9 ㎡
　　T 工法：10.5 ㎡
　　K 工法：10.5 ㎡

パラトーン玉吹材

柔軟性に富み耐久性に優れた外装用アクリルゴム系玉吹材です。

●外観／白色ペースト状
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　T 工法：25.7 ㎡
　　K 工法：25.7 ㎡

ハイドラフレックス

金属屋根防水用の伸長性と強度に優れたアクリルゴム系防水材です。

●外観／灰白色ペースト状
●荷姿・容量／ペール缶 18 kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　30 ㎡

メタルロック（1液弱溶剤防錆プライマー）

金属屋根防水用の弱溶剤1液反応硬化形エポキシ樹脂系プライマーです。

●外観／灰色ペースト状
●荷姿・容量／石油缶 16 kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　106.6 ㎡

メタルロックⅡ（2液弱溶剤さび転換形防錆プライマー）

密着性・耐久性に優れた緻密で強靱な塗膜が水分や酸素を遮断し、錆の発生を長期間抑制します。

●外観／主剤・グレー色液体
　　硬化剤・淡黄色液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 14.4kg
　　硬化剤・2L 角缶 1.6kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　106.6 ㎡

ヒートバリアトップⅡ（2液弱溶剤遮熱トップコート）

弱溶剤のアクリルシリコン樹脂を主成分とした2液型のトップコート材です。光沢保持性、耐候性、耐水性に優れた遮熱型の塗料です。

●外観／主剤・着色液体
　　硬化剤・透明液体
●荷姿・容量／主剤・石油缶 15kg
　　硬化剤・1L 角缶 1kg
●使用量・1セット当り施工面積(概数)
　　ハイドラ：53.3 ㎡

製品一覧

パライージー（仕上一体型塗膜防水材）

●パライージーLiquid

防水材とトップコートの性能を兼ね備えています。トップコートが不要なワンデイ工法のため工期を大幅に短縮でき、改修工事にも優れた性能を発揮します。

[パライージー Liquid]
●色調／シルバーグレー・ナチュラル・
　テラコッタ・アースグリーン
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 15kg

●パライージーPowder

[パライージー Powder]
●外観／白色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 9kg

●使用量・1缶、1 袋当り施工面積(概数)
　パライージー材：24.0 ㎡

※詳細については、専用カタログをご参照ください。

オスモタイト P（ケイ酸質系塗布防水材 JASS8Pタイプ）

日本建築学会JASS 8に適合しているケイ酸質系塗布防水材です。

●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／紙袋 25kg
●使用量・1袋当り施工面積(概数)
　オスモタイト P 材：16.6 ㎡

オスモタイトⅠ（ケイ酸質系塗布防水材 JASS8Iタイプ）

日本建築学会JASS 8に適合しているケイ酸質系塗布防水材です。

●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／紙袋 25kg
●使用量・1袋当り施工面積(概数)
　オスモタイトⅠ材：17.8 ㎡

※詳細については、専用カタログをご参照ください。

仮防水材 OZ（仮防水材兼下地調整材）

●OZ原液

ポリマーセメント系仮防水材兼下地調整材です。抜群のなめらかさと造膜性、付着性で工事中の漏水から建物を守ります。

[OZ 原液]
●外観／乳白色液体
●荷姿・容量／石油缶 18kg

●OZ混和材

[OZ 混和材]
●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／クラフト袋 12kg

●使用量・1セット※当り施工面積(概数)
　OZ 材 :28.0 ㎡(塗布量 1.5kg/㎡時)
　　～84.0 ㎡(塗布量 0.5kg/㎡時)

※OZ原液1缶とOZ混和材(12kg)2袋で1セットです。

パラベース NEO（カチオン系下地調整材）

作業性に優れたカチオン系下地調整材です。各種下地との接着性及びパラテックスとの接着性が良好です。

●外観／主材・灰白色粉体
　　混和液・乳白色液体
●荷姿・容量／主材・紙袋 14kg
　　混和液・ポリ容器 2kg
※混和液は紙袋内に同包されています。

●使用量・1セット当り施工面積(概数)
　塗り厚 1mm の場合：10.0 ㎡
　塗り厚 3mm の場合：　3.0 ㎡
　塗り厚 5mm の場合：　2.0 ㎡

※詳細については、専用カタログをご参照ください。

パラテックス DW

パラテックスの樹脂をベースにした外壁用化粧防水材です。

●外観／白色液体
●荷姿・容量／石油缶 18kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　DW 材：30 ㎡

パラウエイ（一材型塗膜防水材）

粉末タイプの一材型ポリマーセメント系塗膜防水材です。水と混ぜて塗布することにより、すぐれた防水性を発揮します。

●外観／灰白色粉体
●荷姿・容量／ポリ袋 5kg×2
　　(段ボール箱入)
●使用量・1箱当り施工面積(概数)
　パラウエイ：8 ㎡

※詳細については、専用カタログをご参照ください。

トップコート A

外壁防水用の1液水反応硬化型アクリル樹脂系トップコート材です。

●色調／標準色 36 色(色見本をご参照ください)
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 16kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　53.3 ㎡

トップコート U

外壁防水用の1液水反応硬化型ポリウレタン樹脂系トップコート材です。

●色調／標準色 36 色(色見本をご参照ください)
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 16kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　53.3 ㎡

トップコート Si

外壁防水用の1液水反応硬化型アクリルシリコン樹脂系トップコート材です。

●色調／標準色 36 色(色見本をご参照ください)
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 16kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　53.3 ㎡

トップコート F

外壁防水用の1液水反応硬化型フッ素樹脂系トップコート材です。

●色調／標準色 36 色(色見本をご参照ください)
●外観／着色液体
●荷姿・容量／石油缶 15kg
●使用量・1缶当り施工面積(概数)
　　50 ㎡

注意事項

施工環境

●気温5℃以上、湿度85％未満で施工してください。
●降雨、降雪、強風が予想される場合には、施工を避けてください。
●夏季の屋外などの場合、必要に応じて作業時刻をずらす等のご配慮をお願いします。
●ピット等の閉所は、酸欠防止のために送風換気を行ってください。
●湿度の高い施工箇所の場合は、送風機や除湿機を使用して、湿度を下げて施工してください。

下　地

●下地はコンクリート金コテ仕上げ程度としてください。
●入り隅は通りよく直角とし、出隅は通りよく面取りとしてください。
●C仕様、C-BR仕様の下地は補強布を張るため、平坦性、平滑性が必要です。
●コンクリートの欠損部、突起部、目違い等は、サンダー、ケレン、ポリマーセメントモルタル充填等、適切な処理を行ってください。
●下地の巣穴は防水層のピンホールやふくれの原因となるため、パラベースNEO等の下地調整材等で処理してください。
●下地の付着物、コンクリートのレイタンス、エフロレッセンス等の脆弱層は、防水層の接着不良の原因となりますので、サンダー、ケレン、ポリッシャー等で十分に取り除いてください。
●経年劣化したコンクリート、モルタル、その他通常と異なる下地の場合は、パラベースNEO等の下地調整材や特殊プライマーによる対応もありますので、弊社にご相談ください。
●鉄部等の役物は、防錆処理を確認のうえ、防水材を塗布してください。
●下地表面は浮き水（結露水などの表面水）がなく、背面からの水の滲み出し（湧水）がない状態としてください。外部からの漏水が発生している場合は止水材を用いて処理してください。
●清掃は入念に行ってください。

施　工

〔材料配合〕
●材料の練り混ぜは、所定の配合比率を守り、電動攪拌機を使用して均一になるまで十分に行ってください。練り混ぜ量は、可使時間内に使い切る量としてください。
●防食材（エポキシ樹脂等の2液反応硬化型材料）を一度に多量に混合すると材料温度が急激に上昇し、可使時間が極端に短くなる場合があります。1回の材料混合は、施工環境、面積、施工能率、可使時間等を考慮して小分けにして行ってください。夏場は攪拌前の材料の温度が上がらないよう日陰等の涼しい場所に置く等の処置を取ってください。

〔塗布〕
●塗布量はカタログに従い、規定量を使用してください。
●コテ塗りの際には、シゴキ塗りをすると所定の塗布量がつきにくくなりますので、注意してください。
●防水材をローラー塗りする場合は、塗料感覚でローラーを押し付けて塗布すると所定の塗布量がつきにくくなりますので、注意してください。
●施工仕上りは、施工器具や作業者により若干の差異がありますがご了承ください。
●防水層にふくれが出る恐れがある場合は、回数を分けて塗布する等の対応をお願いします。
●施工部位の形状・施工環境等によっては、塗布回数を分けて施工することをおすすめします。
●ピンホールがある場合は、タッチアップ補修等を行ってください。
●防水層には、基本的に保護層が必要になります。保護層施工時には、防水層を傷つけないようにしてください。

〔養生〕
●前工程の乾燥・造膜を確認後、次工程に取り掛かってください。特にエポキシ樹脂積層工法は、中間層（パラコートEZ等）を十分に乾燥させてからエポキシ樹脂を塗布してください。
●ピット等の閉所施工の場合、塗布作業後は結露を防止し、乾燥造膜を促すために、送風機等を使用して槽内換気を行ってください。
●水槽工法（エポキシ樹脂・ウレタン樹脂積層工法を含む）の場合、最終工程塗布完了から通水（水張り）までの養生は、原則として7日以上（23℃）おこなってください。
●造膜硬化するまで結露等が発生しないように送風機等を使用して空気の循環を良くしてください。

施工後・メンテナンス

●防水層は柔軟性があるため、上に重量物を落下させたり鋭利なもので突いたりしないでください。清掃は、柔らかいブラシ等をご使用ください。
●ドレン等は定期的に清掃し、詰まりのないようにしてください。
●ポリマーセメント系仕上げ工法の水槽の場合、養生完了後必要に応じて（水槽の種類により）水張り（1～2週間を目安）によりアク抜きを行い、排水、槽内洗浄後に稼動に供してください。
●エポキシ樹脂積層工法（水道用水槽や養魚用水槽等）の場合、養生完了後に水張り（1～2週間を目安）を行い、排水、槽内洗浄後に稼動に供してください。
●排水槽等は定期的に洗浄を行い、塗装面に汚泥、油脂分等の継続的な付着のないようにしてください。
●高濃度の雑菌消毒剤の添加は避けてください。（次亜塩素酸ナトリウムで100ppm以下。ただし、液温は常温23℃以下。）
●残材や梱包材は、各自治体の規則に従い産業廃棄物として処分してください。

保　管

●風雨や直射日光をさけ、凍結しない場所に密封状態で保管してください。粉体材料は、水のかからない場所に保管してください。補強布等は、変形させないように保管してください。
●火気・高温を避け法令を順守して保管してください。（消防法：危険物 / 指定可燃物 該当品）

〔使用時・保管時のお願い〕
●一部の材料（セメント系材料等）で上記の保管条件が得にくい場合や保管条件を満たす場合でも、異状が疑われる場合（袋の膨張や袋の感触で内容物の硬化が疑われる等）は、塊の有無等、変質がないか確認をしてください。
●６ヶ月以上経過したものについても、塊の有無等、変質がないか確認をしてください。開封したものは、速やかにお使いください。

取　扱

●容器から取り出す時は、こぼれないようにしてください。漏出した場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等で処理してください。
●取扱中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて、防塵マスク、防毒マスク、保護眼鏡、保護手袋などを着用してください。
●指定された以外の材料と混合しないでください。
●取扱後は、洗顔、手洗い、うがい等を十分に行ってください。
●吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移動して休息し、医師の診察を受けてください。
●皮膚に付着した場合には、水と石けんで洗い、医師の診察を受けてください。
●眼に入った場合には、水で数分間注意深く洗い、医師の診察を受けてください。
●飲み込んだ場合には、無理に吐かず水で口の中を洗い、医師の診察を受けてください。
●呼吸器、皮膚の敏感な人、アレルギー体質の人は、一部の材料（エポキシ材等）を取り扱わないでください。
●火気のあるところでは、使用しないでください。（溶剤系材料や希釈剤等を使用する場合）

〔手環の取扱い〕
●手環はグリップ部を正しく持ち、垂直に持ち上げるように取扱ってください。
●手環を利用して治具で吊り上げ、吊り下げしないでください。
（偏荷重になると、手環が座金からはずれ、落下事故が発生する危険性があります）
●屋外、または湿気の多い場所および長期間保管していた缶については、手環の座金に錆の発生等の異常がないかどうか、必ず確認してください。（錆が発生すると、座金がはずれる危険性があります）

廃　棄

●使用済みの容器、材料の付着した手袋、ウエス等は、国・都道府県・市町村の規則に従って処理してください。
●容器は中身を使い切ってから、国・都道府県・市町村の規則に従って処理してください。
●本材料を廃棄する場合は、国・都道府県・市町村の規則に従って処理してください。

環境を守り、信頼に応える

大関化学工業株式会社

www.ozeki-chemical.co.jp

本社	神戸市東灘区住吉南町 1 丁目 1−15	〒658-0041	(078) 841-1141
北海道支店	札幌市中央区南一条東 5 丁目 7−10 北海道日伊文化会館本館3F	〒060-0051	(011) 222-4850
東北支店	仙台市青葉区五橋 1 丁目 6-6 五橋ビル 4 F	〒980-0022	(022) 221-7142
東京支店	東京都港区東麻布 1 丁目 9−15 東麻布一丁目ビル7F	〒106-0044	(03) 3582-7371
名古屋支店	名古屋市東区主税町 2 丁目 3 法務総合ビル 4F	〒461-0018	(052) 962-2731
関西支店	神戸市東灘区住吉南町 1 丁目 1−15	〒658-0041	(078) 811-1147
中四国支店	広島市中区広瀬北町 3 番 11 号 和光広瀬ビル7F	〒730-0803	(082) 297-1005
九州支店	福岡市中央区平尾 3 丁目 22−3 平丘ビル1F	〒810-0014	(092) 524-1360

OZEKI CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.
253 Asoke, 29th Fl, Sukhumvit 21 Rd., Klongtoey Nue, Wattana,Bangkok, 10110, Thailand +66 (0) 2-262-0688

本カタログの記載内容は製品改良のために予告なく変更することがありますのでご了承ください。

24219J®

2024年2月版